2019年度 休眠預金活用事業

「犯罪を犯した依存症者の支援拠点づくり」事後評価報告書

【実行団体】特定非営利活動法人ジャパンマック

舞い上がれ 社会を変える みんなの力
休眠預金活用事業

人はみな、生かされて生きてゆく。
更生保護ネットワーク

【資金分配団体】更生保護法人 日本更生保護協会
資金分配団体事業名｜安全・安心な地域社会づくり支援事業
事業の種類｜草の根活動支援事業

目次

1．事業概要 …… p.2

実行団体概要 / 助成事業概要
助成事業ロジックモデル

2．事後評価実施概要 …… p.4

（1）実施概要
（2）実施体制

3．事業の実績 …… p.6

3－1　インプット
3－2　活動詳細と支援事例
3－3　活動とアウトプットの実績
3－4　外部との連携の実績

4．アウトカムの分析 …… p.21

4－1　アウトカムの達成度
（1）アウトカムの計画と実績
（2）アウトカムの達成度についての評価
4－2　事業の効率性
4－3　成功要因・課題

5．考察 …… p.30

事業全体を振り返っての考察
（その他深掘り検証項目 / 波及効果 / 提言 / 知見・教訓）

6．結論 …… p.34

6－1　事業実施のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価
6－2　事業実施の妥当性

7．資料 …… p.35

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

1. 事業概要

実行団体

特定非営利活動法人 ジャパンマック

団体概要

様々な依存症（アルコール、ギャンブル、薬物、性、窃盗等）からの回復支援として、相談窓口やリハビリテーションプログラムの実施、障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業（就労支援、生活訓練、共同生活援助等）、調査研究、研修事業などを行っている。※全国に17ある法人のうち「ジャパンマック福岡」が本事業の実行団体。

(ジャパンマック福岡・箱崎事業所)

解決を目指す社会課題

触法依存症者（依存症を起因として犯罪を犯してしまう方々）は、薬物依存・窃盗症・性依存など犯罪に直接的なものから、アルコール依存による無銭飲食やギャンブル依存による横領など間接的なものまで多岐にわたる。病識を持てずに回復支援に繋がらないまま再犯を繰り返すことと、支援にはつながっているが断片的な支援（支援を受けるが一時的なもので終わってしまっていること）で結果が出ないままに再犯に至るケースが多いことが課題であり、長期的・有機的（地域連携・多機関連携）な支援が必要である。

助成事業

事業名

犯罪を犯した依存症者の支援拠点づくり

事業概要

触法依存症回復支援拠点を開設し、触法依存症者が依存症に気づき、回復支援の存在を知り、仲間とともに継続的な回復支援につながり再犯の悪循環からの解放を支える環境を作る。当事者への支援だけでなく、家族を家族会等につなげる支援や、地域関係団体のネットワーク作りを行い、依存症支援の必要性について広く理解と連携を深めることを目指す。

実施期間｜３年（2020.3～2023.3）
対象地域｜福岡県 福岡市
支援対象｜触法依存症者
及び家族・関係者

事業終了時の展望（当初案）

触法依存症者の再犯防止に欠かせないのは、自らの意志で回復（断薬や断ギャンブル）を維持すること。２年から３年の初期支援を行いながら、住居や仕事など自立生活の環境を整え、回復に向けた意欲を育む。コーディネイト機関は継続的に関わり、長期的な支援を続けていく。依存症者の自助グループや施設の整備も行い、これまでなかった“触法依存症者が安心できるコミュニティ”を回復者と共に地域に定着させる。３年後の助成期間終了後も、３年間で得たことを活かして事業はそのまま継続していく。資金調達を含めた継続方法としては、①寄付を含めた自己資金での運営、②障がい福祉サービスの「相談支援事業所」を開設してエールの機能を持たせる、③自治体からの恒常的支援（業務委託等）を受ける　のいずれかを考えている。

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

ロジックモデル　【犯罪を犯した依存症者の支援拠点づくり】

中期アウトカム

事業実施地域において、罪を犯した依存症者が地域社会で依存症から回復し、再び犯罪に至らないような生活をする。安全安心の地域社会になる。

短期アウトカム

01
罪を犯した依存症者が、自身の依存症を自覚し、意欲を持って回復への道を歩み、再犯しない状態が維持されている。

02
依存症家族が、依存症の家族会や地域の支援につながった状態になる。

03
警察関係者や司法関係者等地域の関係団体が、罪を犯した依存症者への支援の必要性を理解し、依存症支援機関につなげる状態になる。

アウトプット

0101
支援をうけた罪を犯した依存症者が、自分の依存症に気づき、回復支援の存在を知る。支援を受けた罪を犯した依存症者が、自分から希望して回復支援につながる状態になる。

0201
罪を犯した依存症者の家族が、ジャパンマックに相談できる状態になる。

0301
警察関係者や司法関係者等を含む、関係機関職員向けのセミナーを開催する。また、セミナー参加者らが依存症回復支援を行っている団体のネットワーク（検討委員会）に参画し、罪を犯した依存症者の存在とその問題について知る機会ができる。

活動

相談センターを開設し、依存症者への面接を行う。顕在化用漫画冊子を作成し、関係先に配布。回復支援計画を作成し、計画にそった支援を行う。

相談センターを開設し、周知用パンフを作成し関係機関に配布。依存症者家族の疲弊や不安の緩和の為、定期的な心理面接を行う。

警察、検察、司法関係者、医療関係者、福祉関係者で構成した検討委員会を年2回実施。関係機関職員向けのセミナーを行い、触法依存症者の支援に対する知識を持った支援者を増やす。

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

（1）実施概要

① どんな変化をこの事業の重要なポイントとして設定したか

自身が依存症であるとの明確な認識なく犯罪に及んだ方々に、エールの支援を通じて依存症であることを気づかせ、依存症について知り、回復に前向きに取り組めるように心理変化すること

② どんな調査で測定したのか

短期アウトカム01の評価	**01**	**罪を犯した依存症者が、自身の依存症を自覚し、意欲を持って回復への道を歩み、再犯しない状態が維持されている。**
	指標	①支援につながり続けている人の割合 ②支援につながり続けている人の再犯率（再犯＝事件化されたもの） ③支援につながり続けている人の心理変化 ④①のうち、回復支援計画に沿って回復の道を歩んでいる人の事例
	（1）調査方法 （2）調査実施時期 （3）調査対象者	【 定量調査 】 ①,② 支援記録 集計 2020年4月～2023年3月 エールで何らかの支援を行った方々全員
	（1）調査方法 （2）調査実施時期 （3）調査対象者 （4）分析方法	【 定量調査 】 ③ エールの支援についてのアンケート調査（主な項目：Q2,3 支援を受ける前と現在の利用者の心理変化） 2022年10月1日～2022年10月31日 事業の対象となった被支援者のうち、調査実施時期に支援につながっていた被支援者（矯正施設入所中の方のぞく）のうち協力を得られた27名に対し、実施した。回収者数27人（回収率100％）であった。 Q2,3はT検定を行なった。
	（1）調査方法 （2）調査実施時期 （3）調査対象者	【 定性調査 】 ④ 支援員によるエピソード記述 2020年4月～2023年3月 事業の対象となった被支援者のうち、矯正施設に入所中の方を除いて地域で生活している方に限定して調査に協力が得られた５人のエピソードを記述。

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

② どんな調査で測定したのか

短期アウトカム02の評価	**02**	**依存症家族が、依存症の家族会や地域の支援につながった状態になる。**
	指標	①支援を受けて、家族会や地域の支援につながっている家族の割合
	（1）調査方法 （2）調査実施時期 （3）調査対象者	【　定量調査　】 支援記録 集計 2020年4月～2023年3月 エールで何らかの支援を行った方のご家族
短期アウトカム03の評価	**03**	**警察関係者や司法関係者等地域の関係団体が、罪を犯した依存症者への支援の必要性を理解し、依存症支援機関につなげる状態になる。**
	指標	①警察関係者や司法関係者等地域の関係団体からの具体的な紹介者数が増加する
	（1）調査方法 （2）調査実施時期	【　定量調査　】 支援記録 集計 2020年4月～2023年3月

③ 調査結果をどのように深掘りし価値判断をしたのか

分野専門家（信州大学学術研究院保健学系 新井清美教授）のレビューを受けて、価値判断を行った。

（2） 実施体制

内部／外部	評価担当役割	氏名	団体・役職
内部	検討会	岡田　昌之	事業担当者（総括施設長）
内部	検討会、報告書作成、アンケート実施	末永　直美	事業担当者（エール施設長）
内部	検討会、報告書作成	疋田　若菜	同一法人内の精神保健福祉士
内部	検討会、報告書作成、アンケート実施	北野　真理子	同一法人内の臨床心理士
外部	外部レビュー	新井　清美	信州大学学術研究院保健学系教授

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

3．事業の実績

3-1　インプット（主要なものを記載）

項目		内容・金額
（1） 人材 （主に活動していたメンバーの人数や役割等）	内部：合計 9人（担当者3人、経理1人、他5人）／　外部：合計 12人（弁護士1人、医師3人、他8人）	
（2） 資機材（主要なもの）	事務所用PC、プリンター、事務机、事務椅子、ホワイトボード	
（3） 経費実績 助成金の合計		
① 契約当初の計画金額	合計　10,478,240　円	事業費：9,998,240 円　（内訳　直接事業費：9,091,040 円 ／ 管理的経費：907,200 円） 評価関連経費：480,000 円 コロナ対応緊急支援追加額：　0 円　（内訳　直接事業費：　0 円 ／ 管理的経費：0 円）
② 実際に投入した金額と種類	合計　13,584,240　円	事業費：9,998,240 円　（内訳　直接事業費： 9,091,040 円 ／ 管理的経費： 907,200 円） 評価関連経費： 480,000 円 コロナ対応緊急支援追加額：3,106,000 円　（内訳　直接事業費：3,106,000 円 ／ 管理的経費：0 円）
（4） 自己資金		
① 契約当初の自己資金の計画金額	合計　2,500,400　円	
② 実際に投入した自己資金の金額と種類	合計　2,500,400　円	
③ 資金調達で工夫した点		

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

依存症者回復支援センター エール [YELL]

「立ち直り」と「依存症からの回復」の両立を目指す支援のコーディネート機関

事業実施の経緯

平成25年、福岡に依存症からの回復と成長をめざすリハビリテーション施設「ジャパンマック福岡」が誕生しました。以来、様々な依存症者が回復を目指し、地域で生活していくために必要な障がい福祉サービス（生活訓練の事業所、共同生活（グループホーム）の整備、就労支援事業所の設置など）を提供してきました。また、令和２年にはカウンセリングスペース「やどりぎ」を設置、そして同３年度は訪問看護ステーション「ミーテ」を開設し、より専門的な支援を行える体制を整えてきました。

ジャパンマック福岡において多くの依存症の方と関わっていく中で、依存症を起因として犯罪を犯してしまう方々の支援にも携わるようになりました。薬物依存症や窃盗症（クレプトマニア；万引き・物盗りがやめられない）、性依存症（性的嗜好障害；盗撮や痴漢行為がやめられないなど）の方の場合は依存行為そのものが法に触れてしまいますし、ギャンブル依存症でギャンブルするために会社のお金を横領する、アルコール依存症で酔っ払ってお酒を万引きする…といった方も少なくありません。

依存症という病気の治療は、継続的な取り組みが欠かせませんが、再犯を繰り返している触法依存症の方々は、一度矯正施設に入所すると支援が途切れてしまうため、継続的な治療や回復への取り組みができません。また、触法依存症の方の中には、依存症以外の様々な問題を抱えている方が多く、関係機関との連携や、依存症以外の問題への取り組みなども必要です。また、動機づけが難しい方も多く、治療や回復の取り組みにつなげることにも苦慮してきました。支援を矯正施設に入っているときも継続できるようにすることが再犯の防止に寄与すると考えました。ただ、そのような支援が障害福祉サービスの枠組みの中だけでは難しいことでした。

このような状況の中、令和元年度に休眠預金等を活用する助成事業が始まり、同2年3月、法人として補助金を受けて、ジャパンマック福岡の中で「罪を犯した依存症者の支援拠点づくり事業」をスタートさせました。

この事業を行うための機関として、「依存症者回復支援センター」（以下、「センター」）を設置し、名称を「エール」（応援団）として、これまでジャパンマックの中ではできなかった上記のような支援を４つの役割に分け、活動を行うこととしました。

エールの４つの役割

エールの４つの役割についてと主な支援について紹介します。

①顕在化

まだ依存症という病識のない本人に対し、依存症について知らせ、回復への動機づけを行います。

・啓発のための漫画冊子の作成、配布
・社会資源の紹介
・面談の実施（センター・矯正施設・留置場・病院等）
・手紙のやり取り（矯正施設入所者等）
・裁判支援（情状証人、裁判傍聴、弁護士打合せ、支援計画等の書類作成等）

②回復支援

顕在化の活動を経て、継続的な回復のための支援（期限のない支援）を行います。

・個別の回復支援計画およびリカバリープランの作成
・回復の場につながるまでの同行支援
・危機的状況に対応するための心理面接
・回復プログラムへの参加促進（窃盗症の方向けおよび性依存症の方向けの回復プログラムの作成・実施）

③家族支援

家族にも依存症という病気について知らせます。疲弊したり不安を抱えたりする家族を支援します。

・家族の希望によって本人との面談の実施
・家族会や自助グループ、医療等社会資源の紹介
・回復の場につながるまでの同行支援
・家族の疲弊や不安の緩和のための心理面接の実施
・本人の状況に応じて対応できるよう定期的な面談の実施

④地域、関係者への周知と連携

触法依存症の方々は依存症の問題だけでなく、様々な複雑な問題を抱えている場合が少なくありません。一か所だけでの支援で解決することは困難ですし、一か所にしかつながっていないと、そこから離れてしまったときにつながれる場がなくなってしまいます。そこで、地域の関係機関とネットワークを作り、様々な機関で協力し息の長い支援をしていきます。

事業を開始して2年半、少しずつエールの存在が認知され、関わりのある機関が増えています。

・関係機関とのカンファレンス
・検討委員会の開催（年2回）
・検討委員会では事業報告及び事例検討を行い、関係機関との連携を深める
・検討委員会委員による周知活動の依頼
・関係機関職員向け研修会の実施（年1回）

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

自分が依存症という病識のない方への働き掛け（顕在化支援）

具体的な顕在化支援

前頁で紹介したエールの４つの役割の１つめ、「顕在化支援」についてもう少し具体的に説明します。本事業の中心となるのがこの顕在化支援です。動機づけのためにさまざまなことを行っています。

まずは、顕在化面談の実施です。

初回の顕在化面談はエールで行うこともありますが、拘留されている方の場合、留置場・拘置所・矯正施設に出向いたり、希望されれば自宅や病院などへアウトリーチを行って面談を行っています。このことにより、拘留中にも病気や治療についての説明、動機づけなどの顕在化支援を行うことができるようになりました。

保護観察所や更生保護委員会の協力により、面会に同席してもらったり、遠方の矯正施設に入所されている場合にテレビ会議システムを利用させてもらっており、よりスムーズな顕在化支援ができるようになっています。

エールにつながるタイミングとしては、事件を起こしてしまい、逮捕されて弁護士から紹介される割合が多いのですが、本人・弁護士との打ち合わせにより、今後の回復について一緒に検討し、回復の道筋である「更生支援計画」を立てたり、裁判において情状証人を行い、病気や治療について説明したりしています。こういった裁判支援の中で、信頼関係を築き、本人の動機づけを深めていくことができるようになりました。

また、ある方の裁判支援を行っている過程で、昨年は初めて検察庁にエールのスタッフも呼ばれ、マックやエール、依存症の治療などについて聴取を受ける機会もありました。裁判官にしっかり治療を受けてください、と言われた方もいます。顕在化支援としての裁判支援を行う中で、司法機関の方々へも依存症という病気や、回復の取り組みについて少しずつ知ってもらえるようになっているのではないかと感じています。

これまでは、裁判後、判決により実刑判決が出て、矯正施設に収監された場合、支援が途切れてしまうことが多くありました。エールでは、対象の方に継続して関われるよう、手紙のやりとりや面会等を行っています。

このようなアウトリーチや裁判支援、継続的な関わりというのはこれまでの障害福祉サービスの枠組みでは難しかった支援であり、本事業において、こういった取り組みができるようになったことは大きな成果であると考えています。

動機づけのための漫画冊子作成

顕在化支援の中で、治療や回復への取り組みに対する動機づけがスムーズになる工夫として、依存症の体験談の漫画部分4ケース×10ページに加え、依存症や法律制度についての説明（弁護士監修）や依存症のチェックリストもつけています。

特に、性依存症の体験談の漫画は他にあまりなく、好評を得ています。 相談者のみならず、全国の保護観察所や福岡県弁護士会のレターケースにも配布（福岡地区、約1,000名）しています。日本更生保護協会主催の事業成果報告会後には、他県の保護司会や更生保護施設から漫画冊子のリクエストがありました。

漫画冊子は毎年増刷しており、今年度はアンケートに寄せられた意見を参考に、手に取りやすい表紙に改訂しました。

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

様々なアディクションに対応する回復支援

支援につながった方への回復支援

エールの１つめの柱の「顕在化支援」により支援につながったあとも、継続的で終わりのない支援が重要だと考え、２つめの柱としての「回復支援」の取り組みを行っています。

触法依存症者の中には、発達障害や軽度の知的障害、高齢などにより、複数人での言語的介入による治療の効果が乏しく、これまでのプログラムだけでは対応が難しい対象者が少なくありません。
そのため、そういった方にも対応するためのプログラムの強化を行いました。
少人数で12ステップの基本を具体的に伝える「ビギナーミーティング」や、軽作業（塗り絵や工作、散歩など）中心の作業プログラム、また、発達障害等によりコミュケーションが苦手な方向けのコミュニケーションプログラムも開始しました。
このようなプログラムへの参加者からは「少人数の方が過ごしやすい」「取り組むべきことがわかりやすくなった」等好評を得ています。利用者の精神的安定と継続性の向上につながっているのではないかと考えています。

ほかにも、この「回復支援」の枠組みの中では、個別の回復支援計画の作成 を行って、今後の回復の取り組みを明確に示し、モチベーションを高めたり、医療機関等の初回受診についてはスムーズに医療に繋がれるよう同行支援を行ったり、心理士による継続的な心理面接を行い、危機的状況への対応策を一緒に考えたりしていくなどの支援を行い、途切れない支援を目指していきました。

実際のプログラムの様子（REPSAWM）

回復支援プログラムの作成・実施

また、この「回復支援」の枠組みにおいて、認知行動療法をベースとしたSMARPP（物質依存回復支援プログラム）を窃盗症向け（K-SMARPP）および、性依存向け（REPSAWM：りぷさむ The Recovery Program for Sex Addicts with Japan Mac）に改訂した専門的な回復支援プログラム（SMARPP作成者松本俊彦氏の許諾済）を毎週行っています。
作成したワークブックを使用し試行的に実施する中で、参加者に意見を聞きながらわかりにくい部分やピンとこない部分について修正を行いました。
窃盗症や性依存症に対しての社会資源が乏しい中、エールの重要な取り組みの一つとしてプログラムを実施しています。

K-SMARPPには、1年目がのべ88名、2年目がのべ345名、3年目（22年12月末現在）がのべ294名の参加があり、REPSAWMには1年目がのべ133名、2年目がのべ499名、3年目（22年12月末現在）がのべ341名の参加があり、ニーズの大きさを感じています。
どちらのグループも現在は2グループに分けて実施しており、少人数で一人一人が発言しやすいのもこのプログラムの特徴です。K-SMARPPには、遠方の方がオンラインで参加されることもあります。

また、REPSAWMに関しては、司会や板書等の運営もすべて当事者および回復者スタッフが行っており、正直な気持ちが話しやすい雰囲気となっています。参加者の方からも、「過去の自分を振り返ることができる時間として、とても貴重だと思う」「1クールだけでなく、何度も行うことで、過去の同じ事実でも捉え方が変わるので、自分に対する理解を深めることができた」「本音を言える仲間が増えて良かった」等のポジティブな感想が話されています。

K-SMARPPでは毎クール終了時に修了式を行い、参加証やちょっとした記念品をお渡ししています

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

事例紹介

事例①
無銭飲食で多数の受刑歴がある男性。
当法人のグループホーム入所後、再飲酒があっても再犯はなく、１年半後にアパートに転居して通所を続けた。
通算して３年後に就労し、夜のＡＡのミーティングに通い続け、飲酒と再犯のない生活を長く続けている。利用者ＯＢとして現在も連絡がある。

事例②
パチンコ・パチスロのギャンブル依存がある男性。
働いて給与を得ても所持金を使い果たして、ひったくり等の財産犯に及んでいたが、当法人のグループホーム入所後はこれまで再犯がない。
この間には無断外泊をしてパチンコをする「スリップ」が３度あったが、その度に自己理解を深めてきた。

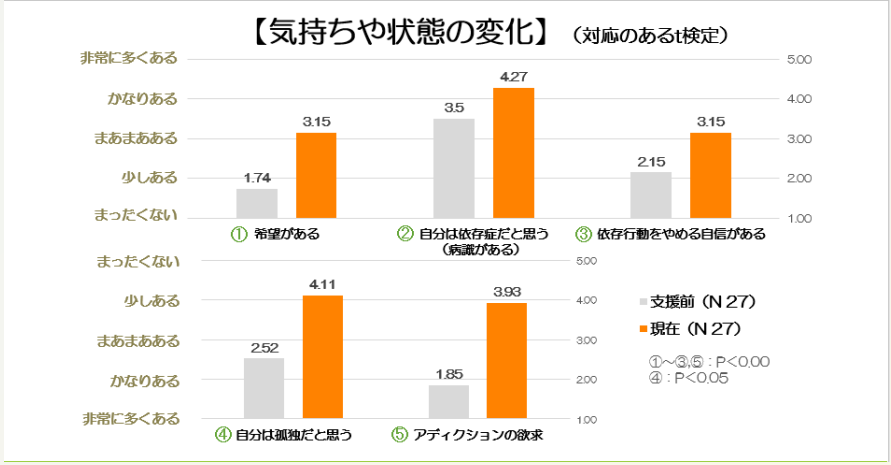
事例③
覚せい剤への依存があり服役を繰り返していた男性。
覚せい剤後遺症で病院に入院したのち、当法人のグループホームに入所。通所施設に通い２年後に就職して退所。
ＮＡのミーティングに参加して自立した生活を続けている。

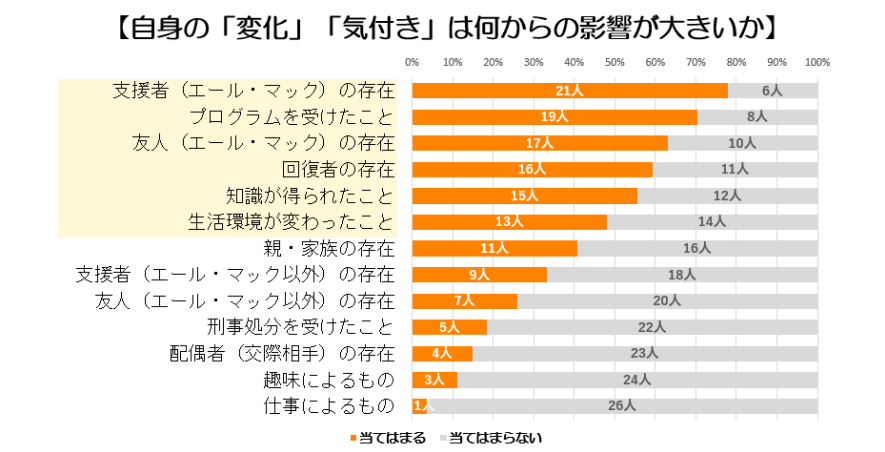
事例④
盗撮と下着窃盗を繰り返していた性依存がある男性。
社会に出て住居や仕事が安定しても１年もしないうちに再犯をしていた。出所後、エールの性依存プログラムを中心とする回復支援を受け、３年経過後、本人の希望もありスタッフとして活躍している。
保護観察所等のプログラムに当事者のアドバイザーとして参加し、社会貢献をしている。

事例⑤
常習累犯窃盗で服役を繰り返していた女性。
窃盗の背景に摂食障害（過食）があり、万引きを繰り返していた。背景には知的障害があるにもかかわらず、一般就労を目指していたことがあり、無理な就労がストレスとなって過食をし、食料を万引きすることを繰り返していた。
出所後、エールの窃盗症プログラムを中心とする回復支援を受ける。しばらく当法人のグループホームと通所施設に通っていたが、万引きがやめられず、入院。退院後は本人の特性にあった施設に入所している。

支援の効果

2020年4月1日～2023年1月末までの相談者203名のうち、現在まで支援につながり続けている人は106名（52.2%）。
内訳は、2020年度からつながっている人が43名（うちマックからの引継ぎ者23名）、2021年度からつながっている人が23名（同1名）、今年度からの人は40名でした。
支援が利用者の役に立っているのかを明らかにするために、2022年10月から11月にかけて利用者へのアンケートを行ったところ、以下のような気持ちや状態の変化が見られ、支援が一定程度の効果があることが伺えました。
また、106名のうち、再犯された方は5名（4.7%）であり、支援につながり続けている人の再犯率はとても低いことがわかりました。





Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

研修会・検討委員会の開催｜
多機関による依存症支援のネットワークを作る

エールの４つめの柱である「関係機関との連携」の枠組みにおいて、「依存症と犯罪」をテーマとし、毎年1回支援者向けの研修会を行っています。R2年度は肥前精神医療センターの武藤岳夫先生、R3年度はうえむらメンタルサポート診療所上村敬一先生、今年度は大阪大学名誉教授藤岡淳子先生をお招きし、ご講演をいただきました。コロナ禍の研修会のため、オンラインでも参加可能としてきました（R3年度は完全オンラインで実施）。

毎回講演は大変好評で、R2年度の武藤先生のお話では、それぞれの依存症についての基本的な特徴から対応について幅広く学ばせていただきました。R3年度の上村先生のお話では特に孤立感や無力感に代表される「生きづらさ」について取り上げていただき、触法依存症の当事者の方からのメッセージもいただきました。今年度は性加害の支援に特化した内容で、司法・福祉・医療・行政など幅広い支援関係者約120名の参加がありました。

また、エールでは年に二回検討委員会という、特に関わりの深い地域の関係機関の方々に検討委員となっていただき、連携会議を行っています。内容はエールの活動報告、関係機関のトピック紹介、事例検討などです。昨年から、二回のうち一回を福岡市精神保健福祉センターと共催で行うこととなり、参加団体・人数ともに増え医療や司法、行政や福祉等の関係機関約20団体、多いときで30名を超える方々の参加があります。この検討委員会から顔の見える関係ができ、連携がスムーズになった機関や、新たなつながりができた機関もあるようです。

本事業も三年目となり、エールや触法依存症について少しずつ地域で認知されてきたと感じています。依存症からの回復は、数年で結果が出るようなものではなく、息の長い支援が必要と考えています。

助成終了後も、エールを継続的な事業にするために、多くの方から共感とご支援をいただけるよう、法人内でファンドレイジング等の勉強会を定期的に重ねています。職員への研修やカンファレンス等の充実も課題です。対象者の方々とともに、今後も成長していきたいと考えています。

R4.10.26、藤岡淳子先生の研修会の様子。オンラインと会場のハイブリッドで開催しました。とてもわかりやすく、先生の熱意が伝わってくるご講演でした。

R5.2.1、検討委員会の様子。福岡市精神保健福祉センターと共催で、初めて完全対面で開催しました。グループに分かれて事例検討を行い、終了後もあちこちで話が盛り上がっていました。

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

触法依存症者の方の 回復への取り組みのイメージ

【更生保護分野での立ち直り支援】

出所後

身元引受人＋就労＋住居　≒　~~安定した生活~~　再犯

※就労支援は、一般の罪を犯した人の立ち直りには有効な支援ですが、依存症の人の場合、依存という病に手当てをしないまま就労を進めることは、逆効果になる（再犯につながる）場合があります。

【依存症の方の場合～回復への取り組みへ】

＋

＝

グループホーム（中間施設）　回復支援施設（生活支援）

再犯のない安定した生活

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

ロジックモデル　【犯罪を犯した依存症者の支援拠点づくり】

中期アウトカム

事業実施地域において、罪を犯した依存症者が地域社会で依存症から回復し、再び犯罪に至らないような生活をする。安全安心の地域社会になる。

短期アウトカム

01
罪を犯した依存症者が、自身の依存症を自覚し、意欲を持って回復への道を歩み、再犯しない状態が維持されている。

02
依存症家族が、依存症の家族会や地域の支援につながった状態になる。

03
警察関係者や司法関係者等地域の関係団体が、罪を犯した依存症者への支援の必要性を理解し、依存症支援機関につなげる状態になる。

アウトプット

0101
支援をうけた罪を犯した依存症者が、自分の依存症に気づき、回復支援の存在を知る。支援を受けた罪を犯した依存症者が、自分から希望して回復支援につながる状態になる。

0201
罪を犯した依存症者の家族が、ジャパンマックに相談できる状態になる。

0301
警察関係者や司法関係者等を含む、関係機関職員向けのセミナーを開催する。また、セミナー参加者らが依存症回復支援を行っている団体のネットワーク（検討委員会）に参画し、罪を犯した依存症者の存在とその問題について知る機会ができる。

活動

相談センターを開設し、依存症者への面接を行う。顕在化用漫画冊子を作成し、関係先に配布。回復支援計画を作成し、計画にそった支援を行う。

相談センターを開設し、周知用パンフを作成し関係機関に配布。依存症者家族の疲弊や不安の緩和の為、定期的な心理面接を行う。

警察、検察、司法関係者、医療関係者、福祉関係者で構成した検討委員会を年2回実施。関係機関職員向けのセミナーを行い、触法依存症者の支援に対する知識を持った支援者を増やす。

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

3-3　活動とアウトプットの実績

アウトプット 0101	**アウトプット｜支援をうけた罪を犯した依存症者が、自分の依存症に気づき、回復支援の存在を知る。** **支援を受けた罪を犯した依存症者が、自分から希望して回復支援につながる状態になる。** 目標達成時期｜2023年1月
	主な活動（概要）｜相談センターを開設し、**依存症者への面接**を行う。**顕在化用漫画冊子**を作成し、関係先に配布。 **回復支援計画**を作成し、計画にそった支援を行う。

指標	初期値	目標値	実績値
①顕在化用漫画冊子の原稿作成状況	①（状態） 漫画冊子作成に未着手	①漫画冊子を一通り完成させ、スタッフや専門家の意見を取り入れ修正していく。	①2021年3月に漫画冊子完成。　【目標値達成】 同年4月から配布およびアンケート回収実施。概ね好評の声をいただいたが、より手に取りやすいよう表紙を修正し、500部増刷（2023年1月）。 ※漫画冊子の要望が多く、途中で法人経費でさらに増刷（500部）。
②紹介・相談を受けた依存症の人の数	②0人	②72人 （各年度24人）	②2020年度：79名　【目標値達成】 （同年４月から、新型コロナウイルス感染症拡大による初めての全国一斉緊急事態宣言が発令され、公的な相談窓口の多くが閉鎖するなどしたこともあり、顕在化を十分行う前から想定以上の相談が寄せられる事態となった） 2021年度：70名 2022年度（4月～2023年1月）：54名 毎年度、想定数をかなり上回る新規相談件数（電話のみの相談は含めず）で、支援ニーズは大きいことがわかった。
③相談・紹介のあった人のうち、具体的な回復支援計画を立てた人の割合	③0人（0%）	③80%	③17.7%（36名/相談件数203名中）　【目標値未達成】 年度ごとの内訳　2020年度：14名（4名） 2021年度：4名　（9名） 2022年度：0名　（5名） *（）内は裁判支援で作成した更生支援計画（外数） 個別に回復支援計画を作成していたが、計画作成はできても実情に合わせた都度の見直し、修正作業まで追いつかず、次第にマンパワー不足により作成が難しくなった。作成時の負担を減らすために書式の見直しを行ったが、それでも状況改善には至らなかった。しかしながら、毎週エールの支援会議にて個別に方針のすり合わせや進捗状況を参加メンバーで共有し、支援スキームについて密に打ち合わせてきたことから、回復支援計画がないことによる不都合を感じたことはなかった（指摘もなかった）。更生支援計画は裁判支援の情状資料として作成するものであり、回復支援計画と内容が重複する点も多いが、あくまでも作成は裁判支援の対象者に限られている。

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

アウトプット 0201	**アウトプット｜罪を犯した依存症者の家族が、ジャパンマックに相談できる状態になる。** 目標達成時期｜2023年1月 主な活動（概要）｜　センター周知用パンフを作成し関係機関に配布。**家族支援**として、定期的な**心理面接**を行う。		
指標	**初期値**	**目標値**	**実績値**
①周知用パンフレットの送付数、送付箇所、そのほか周知状況	①（状態） パンフレット未作成	①家族向けの内容も含んだ周知用パンフレットを完成させ、関係機関約50か所に送付（合計500枚印刷）	①家族向け周知用パンフレットは2020年末に完成。 関係機関約50か所、当事者・ご家族に配布（500枚）は配布終了。 2022年度に増刷した。　【目標値達成】
②罪を犯した依存症者の家族で、相談・支援をした人数（顕在化含む）	②0人	②36家族 （各年度 12家族）	②2020年度：17家族 2021年度：28家族 2022年度（4月～2023年1月末）：18家族 （いずれも電話相談のみの方を除く） すべての年度で目標値を達成している。　【目標値達成】

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

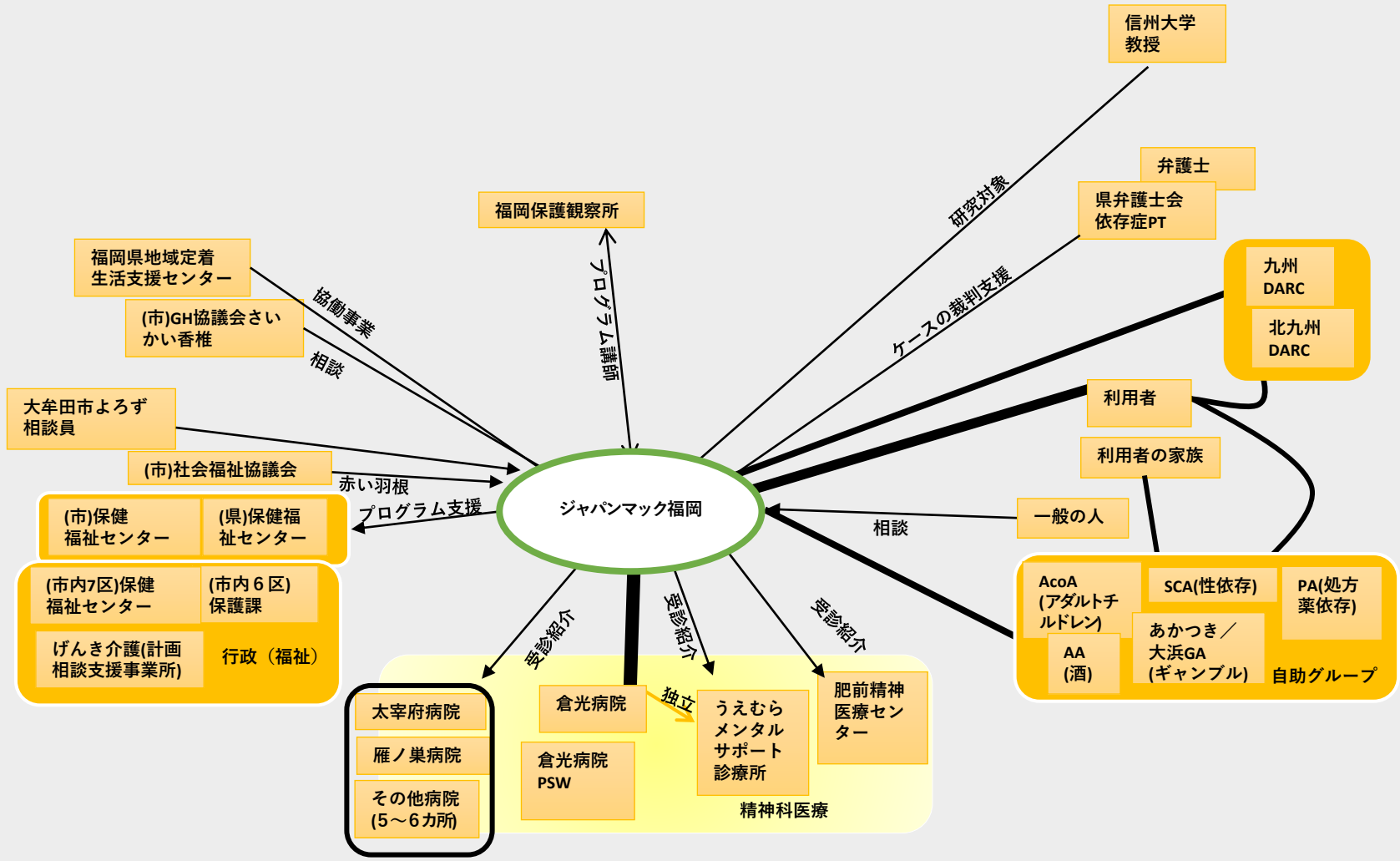
アウトプット 0301	**アウトプット｜警察関係者や司法関係者等を含む、関係機関の職員向けのセミナーを開催する。また、警察関係者や司法関係者等が、依存症回復支援を行っている団体のネットワーク（検討委員会）に参画し、罪を犯した依存症者の存在とその問題について知る機会ができる。** 目標達成時期｜2023年1月
	主な活動（概要）｜ **関係機関向けのセミナー**や**検討委員会**を開催し、触法依存症者の支援に対する知識を持った支援者を増やす。

指標	初期値	目標値	実績値
①関係者等を対象としたセミナーの開催回数	①（状態） 開催なし	①３回 （各年度１回以上の開催）	①3回　【目標値達成】 精神科医師をお招きして関係機関職員向け研修会2020年度１回、2021年度1回実施。2022年度は性加害者支援の専門家をお招きして、2022年10月に1回実施。
②司法関係者等を含む地域の関係機関・団体による検討委員会の開催回数	②（状態） 開催なし	②６回 （各年度２回以上の開催）	②６回　【目標値達成】 検討委員会を2020年度2回、2021度2回、2022年度２回開催。 ※2021年度第2回（2022年2月開催）検討委員会では、福岡市精神保健福祉センターと合同開催という形で実施。 ※2022年度も2023年2月実施の第2回は、2021年度同様、福岡市精神保健福祉センターと合同開催した。
③セミナーや検討委員会に加入する関係機関・団体数及びその構成	③０団体	③検討委員会の参加機関・団体の数：20団体（司法・警察関係の団体を3団体以上）	③2020年度：15団体 2021年度：23団体 2022年度：23団体（うち、司法・警察関係団体は6団体） ※2021、2022年度は、2020年度より8団体増加し23団体となっている。 【目標値達成】 ※毎回20～40名ほどの参加。

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

3-4　外部との連携の実績
【事業開始前のエコマップ：2020年3月時点】

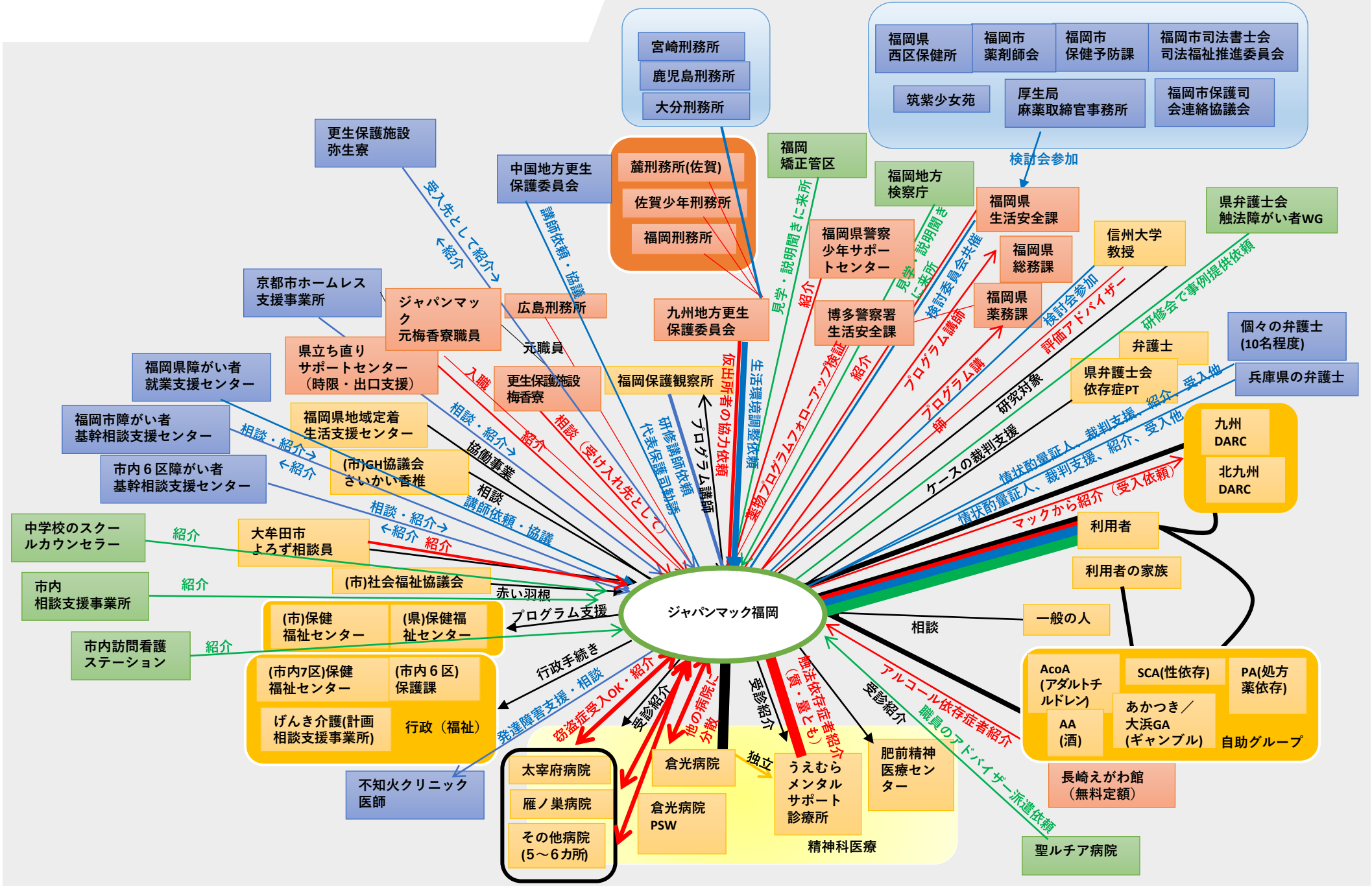
■ エコマップ色分け
助成事業開始前 黄色 → 1年目 赤色 → 2年目 青色 → 3年目緑色



Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

3-4　外部との連携の実績
【事業３年目のエコマップ：2022年7月時点】

■ エコマップ色分け
助成事業開始前 黄色 → 1年目 赤色 → ２年目 青色 → ３年目緑色



外部との連携の実績

■1年目

・研修会を開催してより連携が深まったり、新たにつながりができた機関がある。
・裁判支援の延長で、矯正施設へ入所した方との定期的なやりとりを通じてつながった矯正施設がある。
・博多警察署生活安全課とは、利用者との定期面談をこちらから依頼し、再犯抑止に一役買っていただいたことからつながった。
・行政の一部や福祉施設とは、利用者の受け入れを通して連携をとるようになった。
・そのほか、検討委員会に参加していただいたことをきっかけに連携が深まった関係機関が複数ある。
（福岡保護観察所：事例検討、情報提供のやりとりがスムーズにできるようになった。）
・医療機関とは、利用者の診察や入院受け入れの打診を行ったことがきっかけでつながったところが多い。

■２年目

・エール検討委員会への参加依頼をこちらからお願いし、参加していただいた関係機関・関係者が複数ある。（福岡市障がい者支援センター、弥生寮、福岡市障がい者基幹相談支援センター）
・2回目のエール検討委員会は、福岡市精神保健福祉センターとの共催で行い、これまで関わりの少なかった機関ともつながりができた。エールの活動が知られ、外部との連携が深まるようになったきっかけ（ターニングポイント）になった。
・エールの活動が知られてくると、裁判支援の依頼が刑事弁護人から来るようになった。
・福岡保護観察所、九州地方更生保護委員会・中国地方更生保護委員会などからも保護観察中の方の受け入れを打診されるようになった。
・利用者のつなぎ先として紹介したところ、利用者を紹介していただけるようになった機関がある。
・エールの活動について講義を行ったことをきっかけに、保護観察中の方の受け入れを打診されるようになった。（福岡保護観察所、九州・中国地方更生保護委員会）

■３年目

・エールの活動について講義を行ったことをきっかけにつながりができた（県弁護士会・触法障がい者ワーキンググループ）
・これまで連携したくてもきっかけがなかった検察庁の方から連携したいとのお声をいただき、施設見学と活動紹介が実現できた。

（次ページにつづく）

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

外部との連携の実績

【３年間を振り返って】

１年目２年目は、わたしたちから積極的に外部へ働きかけてエールの活動を知ってもらう広報活動や、利用者支援の連携協力依頼などを通じてつながりを増やしていった。その甲斐あって、徐々にエールの活動の認知度が上がり、３年目は先方から講演依頼や協力依頼が来るようになった。エールの活動を通じて矯正分野の機関との連携は年を追うごとに深まっていると思われる。

また、１年目は地域の関係機関とのつながりが多かったが、２年目、３年目になるにつれ、連携する地域も広がってきて、質、量ともに関係機関との連携が確立してきたように思う。

検察庁や警察、刑務所等についてはもっと連携したかったが、どうしても治療より刑罰という向き合い方の違いから対立関係になりやすく、組織同士での連携を図ることは難しかった。しかし、裁判支援を通じてわたしたちの活動や依存症について知っていただく機会が増えたことで、2023年2月に福岡地方検察庁の方からジャパンマック福岡と連携したいというお話をいただき、３年目の事業の終わり間際にようやく検察庁との連携が実現することとなった。

また、触法依存症者の地域での受け入れ先をもっと増やしたかったが、３年間ではまず本事業実施、地域でのネットワークを構築するという段階であり、今後さらに依存症の啓発に努め、受け入れ先の拡充について尽力していきたいと考える。

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

4．アウトカムの分析

ロジックモデル　【犯罪を犯した依存症者の支援拠点づくり】

中期アウトカム

事業実施地域において、罪を犯した依存症者が地域社会で依存症から回復し、再び犯罪に至らないような生活をする。安全安心の地域社会になる。

短期アウトカム

01
罪を犯した依存症者が、自身の依存症を自覚し、意欲を持って回復への道を歩み、再犯しない状態が維持されている。

02
依存症家族が、依存症の家族会や地域の支援につながった状態になる。

03
警察関係者や司法関係者等地域の関係団体が、罪を犯した依存症者への支援の必要性を理解し、依存症支援機関につなげる状態になる。

アウトプット

0101
支援をうけた罪を犯した依存症者が、自分の依存症に気づき、回復支援の存在を知る。支援を受けた罪を犯した依存症者が、自分から希望して回復支援につながる状態になる。

0201
罪を犯した依存症者の家族が、ジャパンマックに相談できる状態になる。

0301
警察関係者や司法関係者等を含む、関係機関職員向けのセミナーを開催する。また、セミナー参加者らが依存症回復支援を行っている団体のネットワーク（検討委員会）に参画し、罪を犯した依存症者の存在とその問題について知る機会ができる。

活動

相談センターを開設し、依存症者への面接を行う。顕在化用漫画冊子を作成し、関係先に配布。回復支援計画を作成し、計画にそった支援を行う。

相談センターを開設し、周知用パンフを作成し関係機関に配布。依存症者家族の疲弊や不安の緩和の為、定期的な心理面接を行う。

警察、検察、司法関係者、医療関係者、福祉関係者で構成した検討委員会を年2回実施。関係機関職員向けのセミナーを行い、触法依存症者の支援に対する知識を持った支援者を増やす。

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

4-1　アウトカムの達成度

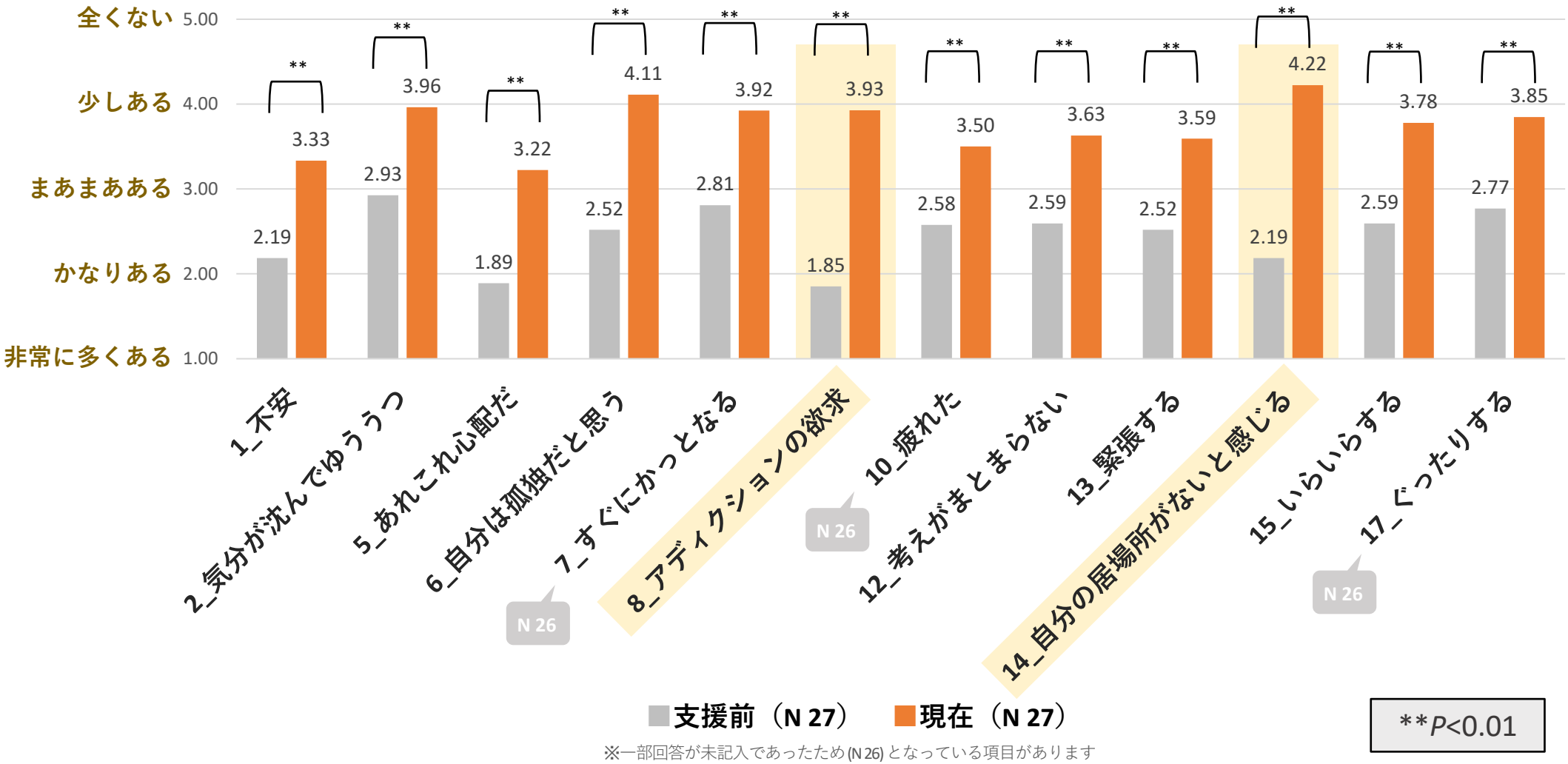
（1）　アウトカムの計画と実績

短期アウトカム 01	罪を犯した依存症者が、自身の依存症を自覚し、意欲を持って回復への道を歩み、再犯しない状態が維持されている。 目標達成時期｜2023年1月

指標	初期値／初期状態	目標値／目標状態	アウトカム発現状況（実績）
①支援につながり続けている人の割合	①０人	①50％	① 52.2％　【目標値達成】 2020年4月1日～2023年1月末までの相談者203名のうち、現在まで支援につながり続けている人は106名。内訳として、2020年度からつながっている人43名（うちマックからの引継ぎ者23名）、2021年度からつながっている人23名（同1名）、2022年度からつながっている人40名。 触法依存症の方は、依存症の問題だけでなく、発達障害や軽度知的障害、高齢や若年など様々な問題を抱えている人が多く、そういった方々に対応できるような少人数のプログラムを実施したり、社会資源の乏しい窃盗症および性依存症の方向けの専門プログラムを開発・実施し、個別的に対応して支援からドロップアウトしない工夫を行ってきた成果だと考えている。
②支援につながり続けている人の再犯率（再犯＝事件化されたもの）	②該当なし（支援事例がなかったため）	②15％	② 4.7％　【目標値達成】 上記106名のうち、再犯された方は5名。 支援につながり続けている人の再犯率はとても低かった。 ※参考：覚醒剤取締法違反により検挙された成人の同一罪名再犯者率は68.1％(令和３年)
③支援につながり続けている人の心理変化	③該当なし（支援事例がなかったため）	③支援につながり続けている人の半数以上の人が、支援前と比べて、孤独感が軽減したり、自己肯定感や幸福感が増すなど、肯定的な心理変化が見られている	③別紙アンケートに記載のすべての項目において平均値が改善していることから、半数以上の人に肯定的な心理変化があったと判断する。　【目標値達成】 （アンケート結果：23～24ページ参照）
④①のうち、回復支援計画に沿って回復の道を歩んでいる人の事例	④事例なし	④支援により、依存症であるという病識を持って支援計画に沿って意欲を持って回復への道を歩んでいる（事例）	④10ページ記載の事例①～⑤を参照のこと　【目標値達成】

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

【支援につながる前と現在の心理変化① マイナス感情】（対応のあるt検定）



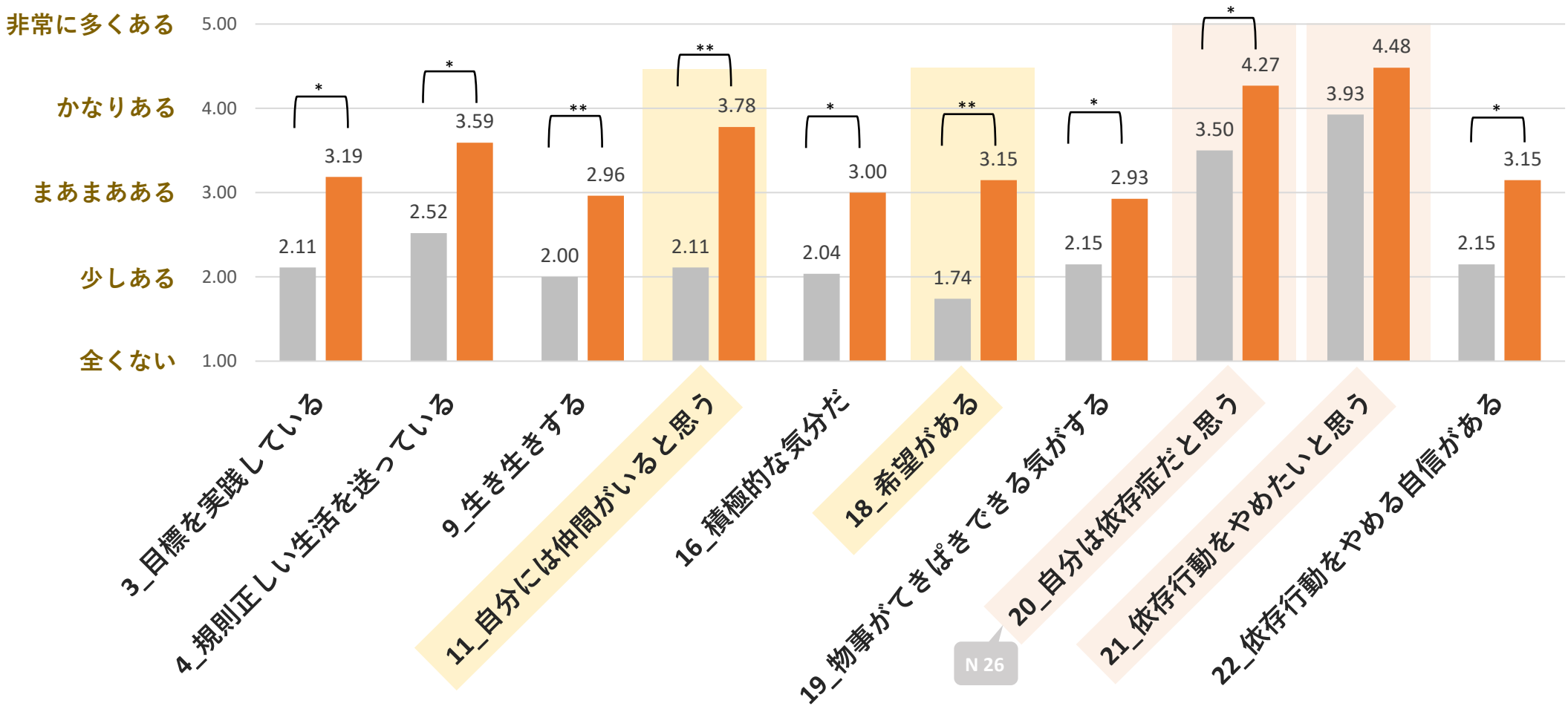
**P<0.01

※一部回答が未記入であったため(N 26)となっている項目があります

すべての項目において改善しており、心理的に落ち着いてきている様子がうかがえる。
特に**「アディクションの欲求」「自分の居場所がないと感じる」が大幅に減少している。**

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

【支援につながる前と現在の心理変化② プラス感情 】（対応のあるt検定）



■支援前（N 27）　■現在（N 27）

※一部回答が未記入であったため(N 26)となっている項目があります

**$P<0.01$	*$P<0.05$

全体的に改善傾向にあり、「自分には仲間がいると思う」「希望がある」は特に上昇している。
「自分は依存症だと思う」「依存行動をやめたいと思う」は他の項目以上に強く思っている様子がうかがえる。

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

短期アウトカム 02	**依存症家族が、依存症の家族会や地域の支援につながった状態になる。** 目標達成時期｜2023年1月		
指標	**初期値 ／初期状態**	**目標値 ／目標状態**	**アウトカム発現状況（実績）**
①支援を受けて、家族会や地域の支援につながっている家族の割合	①0人 （0%）	①80%	① 6.3%　【目標値未達成】 2020年4月1日～2023年1月末まで63家族から相談を受け、そのうち、マック家族会や地域の支援（自助グループ・カウンセリング機関）につながっている家族は４名。 ※支援につながりにくかった要因としては、コロナで家族会が開催されなかったこと、高齢の家族も多く、地域の支援につながりにくかったことが挙げられる。

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

短期アウトカム 03	**警察関係者や司法関係者等地域の関係団体が、罪を犯した依存症者への支援の必要性を理解し、依存症支援機関につなげる状態になる。** 目標達成時期｜2023年1月		
指標	**初期値 ／初期状態**	**目標値 ／目標状態**	**アウトカム発現状況（実績）**
①警察関係者や司法関係者等地域の関係団体からの具体的な紹介者数が増加する	①0人	①年間20名	①2020年度35名 2021年度31名 2022年度25名　（合計91名）　【目標値達成】 ※2020年4月1日～2023年1月末日までの司法関係機関（弁護士・少年サポートセンター・更生保護施設・保護観察所など）からの紹介数。 機関別内訳は弁護士52名、保護観察所15名、更生保護委員会7名など。 ※目標値の年間20名を大幅に超過して達成している。

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

（2） アウトカム達成度についての評価

事業の短期アウトカムの評価	左記のように評価した理由
☐ 短期アウトカムの目標値を上回って達成できている ☑ 短期アウトカムの目標値が達成できている ☐ 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できている ☐ 短期アウトカムの目標値の達成はできなかったと自己評価する	短期アウトカム３つ（①顕在化支援②家族支援③警察・司法関係機関との連携）のうち、①は支援につながった方の52.2％が現在も何らかの支援につながり続けて再犯せずに地域で暮らせていることから、達成できたと評価する。③も、エコマップのとおり矯正機関への出張講座や利用者の紹介を通じて連携を深めることができたことから、達成できたと考える。他方で、②は対象家族が思いのほか少なかったものの、触法依存症者の家族はまた新たな受け入れ先の構築や、それぞれの依存症の特徴を押さえたアプローチ方法などを検討していくことが課題だとわかったことが成果であると考える。

4-2 事業の効率性

事業実施のためのインプットに対して成果の規模や質は妥当であったか

【投入資金が効率的に使われたか】		
実際に事業で使った金額と種類	合計 15,764,799 円 ※2023年4月末 推定値	事業費： 15,403,269 円 （内訳 直接事業費： 14,269,269 円 ／ 管理的経費：1,134,000 円） ※上記事業費には、自己資金：2,466,504 円 を含む 評価関連経費：361,530 円

事業費によって、事業推進に必要な人材を確保し雇用した。事業設計当初の想定を大幅に上回る方々の支援を行えていることから、インプットに対し、非常に効果的・効率的な事業実施・成果・質であったと評価できる。

また、コロナ対応緊急支援追加助成により、オンラインに必要な機材の購入、web会議システムのライセンス取得、オンライン担当スタッフの配置などができ、研修会や検討委員会、プログラムをオンラインもしくは会場とオンラインのハイブリット開催が可能となり、コロナ禍においても事業を中止することなく実施することができた。

Copyright 2023 ジャパンマック福岡 ※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

特に社会課題解決に貢献したアウトカム

【アウトカム】　01　罪を犯した依存症者が、自身の依存症を自覚し、意欲を持って回復への道を歩み、再犯しない状態が維持されている。

【要因】

罪を犯した依存症者が自身が依存症であることを自覚していない場合、依存症であるがゆえに本人の思いとは関係なく依存行為を繰り返してしまい、その結果再犯につながってしまいがちです。この悪循環を断ち切り、再犯せずに地域で暮らしていけるようになるには、まず本人に依存症であるとの自覚を持ってもらい、依存症について学び、依存症からの回復に意欲的に取り組んでもらう必要があると私たちは考えました。

このため、私たちはエールの取組みの中でもとりわけ顕在化支援に力を入れてきたという経緯があります。自分は依存症であるとの自覚を持ってもらうこと、これこそが再犯せずに地域で暮らしていくための第一歩と捉え、手始めに依存症の事例をいくつか短くまとめた顕在化漫画冊子の作成を行いました。この漫画冊子は、刑務所、保護観察所、福岡県弁護士会所属の弁護士などを中心に広く配布し、これを読んだ方に「もしかしたら自分も依存症かもしれない」「身近なあの人は依存症なのでは」との気づきから、依存症や依存症からの回復へ関心を持ってもらえることを狙いとしたものです。

配布後約１年経過後に、顕在化漫画冊子の送り先に同冊子についてのアンケート調査を行ったところ、行政職員や支援者のみならず施設収容されている方や刑事被告人、保護観察中の方からも回答を得ることができました。回収結果から、「自分のことを描かれているのかと思った」などの声を知ることができ、概ね好評を博していることがわかりました。

その後、各地の刑務所や保護観察所、刑事裁判の弁護人等からエールに相談依頼が入るようになり、常習累犯窃盗の方や無銭飲食を繰り返している方、性嗜好障害の方などがエールにつながるようになりました。こうした方々の多くがエールのプログラムを受けたり、ジャパンマック福岡につながったりといった継続的支援を受ける中で、次第に回復に向けて意欲的になっていく様子が日々の支援記録やミーティング中の発言から窺えるようになりました。彼らは再犯することなく一日一日を積み重ねていっています。

エールが開設して２年10ヵ月の間に、エールにつながった方のうち106名が何らかの支援に繋がり続けており、再犯することなく地域で生活できています。これは、利用者自身が依存症であるとの自覚を持ち、同じ依存症の仲間と共に１２ステップを忠実に実践していく中で依存行為や依存物質への囚われを手放し、それらから距離を置く生き方を自ら手に入れようとする回復への歩みです。こうした実績の積み重ねをある程度外部の関係機関のみなさまにも評価していただき、現在は保護観察所や精神保健福祉センターなどの公的機関との連携もさらに深まってきています。

【今後に向けた課題】

しかしながら、同じように顕在化漫画冊子を手にしても、自身が依存症であることを否認し続ける方、エールのプログラムや１２ステップに懐疑的な方、またそれらを理解できない方も一定数おられました。そして、触法の方の中には発達障害、知的障害などの重複障害を有している方も少なくありません。こうした方々は集団プログラムやミーティングに馴染めず、個別支援が必要でした。プログラムの意味が理解できない方、そもそも集団が苦手の方など人によって少しずつ特性は異なるものの、個別に対応が求められている点では共通していました。しかしながら、エール及びジャパンマック福岡においてはマンパワー不足や場所などの物理的な制約もあり、なかなか個別対応が十分にできないことも多くありました。そのうち、触法の方に影響を受けて体調を崩す、不安定になる非触法の方も出てきて、スタッフはこうした方々の対応に追われることになりました。

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

特に達成が困難であったアウトカム

【アウトカム】　02　依存症家族が、依存症の家族会や地域の支援につながった状態になる。

【課題】

このアウトカムを設定した主な趣旨は、依存症者の家族を孤立させない、という点にあります。依存症者の家族は、依存症の本人への対処法がわからないうちは本人の混乱に巻き込まれ、体力的、精神的にかなり消耗・疲弊しています。触法の依存症者の家族であればなおさらです。本人や親戚などから「お前たちのせいでこうなった」と責められ、「家族だから助けるのは当たり前」といった世間の誤った認識に縛られ、どんどんと深みにはまっていってしまうのです。気づいたときには、家族の財産も底を尽き、メンタル不調を発症していた、ということも少なくありません。しかし、こうした悩みを相談できる場所が限られていること、一般的にはあまり知られていないことから、依存症者の家族は誰にも相談できず、地域で孤立しがちです。ジャパンマック福岡で支援を続ける中で見てきたこのような現状から、エールが本人のみならず家族の相談窓口となり、地域の家族会につないだり場合によっては医療機関を紹介したりして、家族を孤立させないための家族支援を目指しました。

ですが、いざエールにつながった触法依存症者の家族を支援しようとしても、①家族との縁が切れている、②家族が支援を求めていない、③コロナ禍で家族会が休会した（事業実施期間中、ジャパンマック及び地域の家族会はほぼ休会していました）、④家族が高齢等（①②④について半数以上の割合でそうであったと思います）のさまざまな理由により支援につながる方が少なく、思っていたほどの成果は上げられませんでした。

なかでも、①犯罪を犯した時点で家族との縁が切れた方、矯正施設への出入りを繰り返して家族と疎遠になった方が想定以上に多く、そもそも支援対象の家族がいないも同然というケースが相次ぎました。また、②なんとか連絡は取れたものの積極的にこちらの支援を求められない家族も少なからずおられました。これまでに散々本人の行動に振り回され、これ以上関わりを持ちたくないとの思いが強い家族、幼少期から本人との折り合いが悪く支援意欲が低い家族などが支援に消極的な傾向にあるようでした。

さらに、長年本人を家族だけで支えようとしてすっかり疲弊し、外部とつながれる状態になるまでにもうしばらく時間を要する家族がいるということもわかりました。③かろうじて支援につながった家族にしても、コロナ禍で家族会が休会し、エールへの来所も難しくなりました。また、④高齢の家族は、オンラインによる面談やミーティング参加が難しく、コロナが比較的落ち着いても年齢的に外出を自粛されて面談が実現しないことが多いこと、就労者に配慮して夜間開催される地域の家族会にも夜間の外出を敬遠しがちな高齢者はつながりにくいこと、などの事情が重なり、継続的な支援までは叶いませんでした。

しかしながら、事業３年目の中頃には「withコロナ」の生活様式へと社会が変わり始め、ようやくジャパンマックや各地の家族会が徐々に再開し始めました。少しずつではありますが、各家族会につながる家族も出てきています。今後は、こうした家族が継続してつながれるよう支援していきたいです。

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

事業全体を振り返っての考察

エールの支援と再犯防止

触法依存症者へ回復の動機づけを行い、切れ目のない支援を行うことを目指して始めたエールの事業ですが、3年目も終わりに近づき、相談者累計204名のうち支援につながった人は106名、その中で残念ながら再犯してしまった人はこのうち5名（4.7％）でした。令和４年犯罪白書によれば、覚醒剤取締法違反により検挙された成人の同一罪名再犯者率は68.1％(令和３年)です。単純比較はできませんが、この統計と比べ、エールの支援につながった人の再犯率は大変低いと考えます。この再犯率の低さだけを見ても、わたしたちの活動は一定の成果を上げることができたと考えています。実際、被支援者のうち地域で生活されている方（矯正施設入所者を除く）を対象として行ったアンケートの結果から、支援につながった期間とアディクションが止まっている期間が相似している方が多数であることが明らかとなりました。

アンケートによると、被支援者の多くが、仲間・支援者・先行く回復者の存在（自分が受け入れられている感覚、話・相談ができること）が回復に有効だと感じていることから、こうした仲間の存在や仲間と回復に取り組める「場」があることが、再犯防止の一助になっていると思われます。

別の視点では、エールを通じて、これまで障害福祉サービスの枠内では手が届かなかった支援（裁判支援、矯正施設での面会や病院同行などのアウトリーチ）が実現でき、潜在的な依存症者の回復支援を通じて再犯防止につなげることができました。利用者の体験談をベースとした顕在化漫画冊子により、触法依存症者の動機づけが以前よりスムーズにいくようになったことで、より多くの方に継続的な支援を行うことができるようになりました。また、窃盗症、性依存症の方向けの専門回復支援プログラムの作成により、利用者から「ここでなら話せる」「正直になれる場所ができた」との声が聞かれました。さらに、外部の方にエールの面談のみ、プログラムのみの利用を選択してもらえるようになり、サービス提供の選択肢が増えたことで垣根が低くなり、利用者がより治療や回復へ取組みやすくなったのではないかと思っています。こうした活動により、これまでは回復につながらなかった方々が回復につながるようになり、支援対象者の広がりや支援内容（プログラム等）の充実等も再犯率の低さに寄与していると考えています。

想定していなかった副産物

当初は、更生保護や矯正分野の関係機関を中心にエールの事業をPRしていましたが、活動を継続するうちに福岡市の精神保健福祉センターから検討委員会の合同開催の申し出をいただいたり、中学校のスクールカウンセラーから相談があったりと、触法に直接関係しない分野とのつながりも生まれてきました。これは当初想定していなかった副産物だと思います。また、福岡県に留まらず周辺の他県や中国地方からも受け入れ相談があるなど地域も広がりを見せ、わたしたちの活動の需要の高さを感じました。

加えて、研修会を通じて地域への啓発ができ、地域の支援者に学びの機会を提供できたと思っています。そして、これらを助成金事業として行ったことで伴走支援団体の日本更生保護協会へ定例報告や面談、相談ができ、また所内で実施しているエール会議で事業内容の整理が都度できたこと、医師に相談できる機会があったことも事業達成の大きな要因と考えます。

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

事業での課題

一方で、エールで支援を継続してきた矯正施設入所者を出所後にどこかにつなごうとしても地域での受け入れ先がほとんどなく、エールの母体であるジャパンマック福岡しか受け皿がない、という地域課題も見つかりました。地域で触法依存症者を支えるネットワーク作りに関しては、個別のケースや検討委員会などを通じてある程度下地はできたと思っていますが、３年間では関係づくりで手一杯で、実際の事例について連携して支援を行うことや、新たな受入先の開拓までには至りませんでした。エールやジャパンマックが地域に還元できることをより広く地域の支援者にお伝えしていきながら、win-winの関係で現場レベルでの連携やケースの受入先の確保に努めていきたいです。

支援の上での悩ましさ～再犯とどう向き合うか

また、前にも触れましたが、触法依存症者は知的障害、発達障害を有している方が少なくないため、通常の支援方法が通用しないケースや困難事例もままありました。この方々に適切な支援や個別対応を提供するだけの十分なマンパワーがなく、徐々にプログラムから離脱する方も出てきました。支援につながってもなかなか万引きがやめられない方もいて、被害店舗にスタッフが一緒に謝罪行脚をして回ることもあり、支援の難しさを改めて感じているところです。こうした方は、夜間にグループホームから抜け出して窃盗行為に及ぶため、ジャパンマック福岡においてはグループホームの夜間巡回を増やし、夜間に常駐できる世話人を新規に雇用するなどして対応しましたが、そもそも規範意識が低い方に対しては対処療法に過ぎず、非常に頭を悩ませました。

さらに、依存症の回復過程においては、「スリップ」（再使用、再行為）することは珍しくなく、スリップを何度か繰り返しながら次第に依存対象物と距離を置けるようになるところ、触法依存症者はスリップ＝再犯となりやすく、スリップに対して支援者側が寛容になれない点も非触法依存症者の方と大きく異なる点です。このため、スリップしたときの対応について、被害者が被害届を出していない時点で支援者としてどうすればよいのか、わたしたちも対応に苦慮しました。例えば、上記の万引きの事例では、被害店舗が万引きに気づいていない段階でスタッフが万引き行為に気がつき、本人に謝罪と弁償をさせることで店舗が被害届を出すまでには至らなかったのですが、ジャパンマック福岡の施設内で利用者の私物を窃取した事案では、謝罪と返却だけでは被害利用者の気持ちが収まらず、何度もスタッフが対応を話し合った末に被害利用者が被害届を出した、ということがありました。難しいのは、性被害が判明したときです。盗撮行為や痴漢行為が判明した場合、被害が甚大なだけに、警察に通報する、自首を勧める、外部へのアクションは様子を見るといったいくつかの対応策のうちどれを選択するかで、支援者の中でも意見が分かれました。このときは、被害者から被害届が出されたことにより結局は司法の手に委ねられることになったのですが、同様のケースが今後も発生しないとは限りません。そのとき、わたしたちはどの選択をするのがよいのか未だに結論は出ておらず、今後もこうしたジレンマを抱えながら支援を続けていくことになります。

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

支援の上での悩ましさ～裁判支援の難しさ

悩ましさはまだあります。本人が回復を望んでいるからと裁判支援を依頼され、エールで情状証人を、ジャパンマックで身元引受人を引き受けた方が裁判終了後いざ支援につながったとき、手のひらを返したように回復とは正反対の言動をとる場合がまれにあります。情状酌量によって量刑を軽くするためにエールやジャパンマックを利用したかのような振る舞いにわたしたちは度々困惑し、翻弄されました。こういった方々は支援を継続することが困難で、遅かれ早かれ離れていきました。裁判支援を依頼された段階で減刑目的なのか真に回復を望んでいるのかを判別するのは難しく、裁判支援を躊躇してしまうこともありました。しかしながら、多くの方は真の回復を目指していると信じて、悩みながらも裁判支援は継続中です。

また、裁判支援において被告人の支援をすることにより、訴追側の検察官と対立関係の構図に立たされるように感じることもありました。本来であれば再犯防止に向けて連携を深めたい機関であるにも関わらず、検察庁との連携が思うように進んできませんでした。依存症という病気や治療の必要性を知ってもらいたい警察や検察との連携が今後の課題の一つと考えていたところ、ようやく検察庁にわたしたちの活動紹介をする機会ができました。これを契機に、依存症やわたしたちの活動をご理解いただき、実際の支援の場面で連携できればと期待しているところです。このように、現在は、**勉強会や出前講座等の中で少しずつ依存症という病気や治療の必要性について個別に知っていただき、今後の連携が見えてきつつある状況です。**今後、警察や矯正分野へもできるだけ足を運び、依存症についての認識を深めていただけるよう努力を重ねながら、再犯防止のために協力し合えるような関係づくりを行っていきたいです。

まずは、依存症の治療を最優先に

現在、社会では一般的に「再犯をしないためには、まず住まいと仕事」と考えられています。ですが、出所後すぐに就職するとどうしても依存症治療は後回しになってしまいがちです（新しい職場で、いきなり「今日は受診なので休みます」「自助グループに行かないといけないから残業はできません」ということはなかなか言いにくいものです）。つまり、依存症者本人が回復への道を歩む機会を失ってしまうおそれがあるのです。再犯防止にはまず依存症の回復支援が最優先されることを、もっともっと多くの支援者や支援団体に理解していただく必要があると考えます。今回の事業においては残念ながらここまでは十分に手が回りませんでしたが、今後事業継続する上で、出前講座等を積極的に行い、依存症や回復支援について知っていただく機会を作りたい考えです。

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

被支援者の視点から

ここまでは支援者側の視点で事業を振り返ってきましたが、ここからは、被支援者である利用者について目を向けてみたいと思います。
「回復支援」における**K-SMARPP、RIPSAWMの評価研究を信州大学新井清美教授にお願いしています**が、そこでの評価アンケートにおいて、

信州大学 新井清美教授より

- **性依存の方は基礎学力が低い傾向にあり、抑うつの（経験）既往があり、精神的健康度がかなり低い状態である**
- **クレプトマニア・性依存ともに衝動性が高く、幼少期の逆境体験を受けている傾向がある**

このような背景があるので、依存症の方は、そもそも支援につながることや支援につながり続けること、人を信頼すること等に対するハードルがあり、本事業は、そういったかなり支援が難しい対象に対して成果をあげている、ということができるのではないか

とコメントをいただいています。

また、先述のアンケートでは、エールとマックの支援を受けた人の約8割強が支援を「満足」（「かなり満足」「まあまあ満足」）と回答していました。また、支援につながる前後での被支援者の心理変化において、アディクションの欲求、孤独感（自分の居場所がないと感じる）が大幅に減少していること、他方で仲間の存在、希望が大幅にアップしていること、とりわけ依存症だという自覚やアディクションを止めたいという思いが他の項目に比べて強くなっていることも同アンケートでわかりました。こうしたアンケート結果から、エールを通じてマックにつながり、場合によっては矯正施設入所前、あるいは入所中から切れ目のない支援を受けてきた人の大半が満足感を抱き、再犯せずに地域で生活できている状態は、わたしたちの事業の先のゴールでもある、「触法依存症者が安心して暮らせるコミュニティを回復者と共に地域に定着させること」にかなり近づけているのではないかと考えます。

終わりに

もっとも、成果を感じながらも前頁に挙げたような課題や悩みも多く見つかり、3年間という短い期間ではまだまだ達成できていないことが多くあります。わたしたちは、今後も支援を継続しながら本事業で得られた多くのものを活かし、課題を克服できるよう挑戦し続けながら、少しでも多くの触法依存症者が再犯せずに地域社会で生活できるよう支援していきたいと思っています。今回助成金が終了することになりますが、本事業はようやく成果が感じられ始めたところであり、今後もこれまでと変わらぬ形で事業継続していく考えです。事業の自走化のために当初想定していた相談支援事業所の開設は、資金及びマンパワーの不足により叶いませんでした。そこで、自治体からの支援を得るべく、2022年2月福岡市の「再犯防止計画」の意見公募の際にパブリックコメントとともにエールとマックの活動紹介の資料をお送りするなどして働きかけを行いましたが、福岡市からの芳しい反応はありませんでした。2022年12月には、日本財団に助成金申請を行いましたが、採択には至りませんでした。そのため、今後も継続して助成金応募や自治体への働きかけを継続していきながら、同時進行で現在法人内でファンドレイジングなど自己資金の調達方法について勉強中です。これまで注力してこなかった寄付募集の方法を見直し、今夏の法人のホームページリニューアルに合わせて寄付メニューの充実を図っているところです。よって、当面は寄付金をベースとした自己資金で事業継続していきながら、機会を見つけて随時助成金申請や自治体への働きかけを行っていく予定です。

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

6．結論

6-1　事業実施のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価

	多くの改善の余地がある	想定した水準までに少し改善点がある	想定した水準にあるが一部改善点がある	想定した水準にある	想定した水準以上にある
1. 課題やニーズの適切性				○	
2. 課題やニーズに対する事業設計の整合性				○	
3. 事業実施のプロセス				○	
4. 事業成果の達成度				○	

6-2　事業実施の妥当性

上記のなかで重要と思われる点や特筆すべき点を根拠として、事業の妥当性についての考えを自由記載してください。

矯正施設入所中から依存症回復への動機づけを行い（顕在化支援）、出所後はエールのプログラムやジャパンマック福岡での支援を提供し（回復支援）、その一連の流れの中で関係機関と連携を取り合い、依存症には回復支援や治療が必要であることを理解してもらう、という③事業実施のプロセスは、外部評価委員である信州大学新井清美教授、エールスーパーバイザーである肥前精神医療センター武藤岳夫医師、検討委員会委員からの意見や助言からも妥当であったと考えます。さらに、エールが支援を行い現在も継続して何らかの支援を受けている方を対象としたアンケートの結果から、依存症であるとの自覚を持つという動機づけはある程度功を奏し、④事業成果の達成度も想定した水準にあると評価できると思います。

他方で、家族支援については、ニーズ把握自体は間違っていなかったものの想定外に少なかったこと、コロナ禍においては支援の制約が大きく、特に高齢のご家族にはオンライン等の代替手段も十分に活用できなかったことなどを考えると、①②の評価は迷うところもありました。しかしながら、顕在化漫画冊子がかなり好評だったことや利用者アンケートの結果などから、全体としては①②いずれも概ね妥当であったと思われ、結果として上記のような評価になりました。

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

7．資料

No.	内容	ページ数
1	事前評価時の短期アウトカム／最新の短期アウトカム	p.36
2	エールの支援についてのアンケート　様式	p.37～38
3	同上　結果まとめ	p.39～62

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

事前評価時の短期アウトカム（事業計画書より抜粋）

(2)短期アウトカム	指標	初期値/初期状態	目標値／目標状態	目標達成時期
支援を受けた罪を犯した依存症者が、自身の依存症を自覚し、意欲を持って回復への道を歩み、再犯の悪循環から解放された状態になる（再犯をしなくなる）	①相談・紹介のあった人のうち、具体的な回復支援計画を立てた人の割合 ②①のうち、自分が依存症であることを受け入れた人の割合 ③②のうち、回復支援計画に沿った支援を受け入れている人の割合。 ③①のうち、回復支援計画に沿って回復の道を歩んでいる人のナラティブ（又は支援を受けるに至らなかった人のナラティブ）	無し	①80% ②50% ③支援により、病識を持って支援計画に沿って意欲を持って回復への道を歩んでいる。	2023年3月
家族が、孤立から抜け出し、病気の知識を身につける（=疲弊しない）ことにより、本人への適切な支援が可能となり、支援環境が改善する。	家族が家族会やカウンセリング機関や施設への相談をするようになり、孤立から抜け出す。 ①支援を受けて、家族会や地域の支援につながっている家族の割合。 ②支援を受けた家族のうち、「依存症者の家族として自分は孤独ではない」と感じている人の割合。	無し	①80% ②50%	2023年3月
警察関係者や司法関係者等地域の関係団体が、罪を犯した依存症者への支援の必要性を理解し、依存症支援機関につなげる状態になる。	①警察関係者や司法関係者等地域の関係団体からの具体的な紹介者数の増加する。	無し	①年間10名	2023年3月

最新の短期アウトカム（事業計画書より抜粋）

(2)短期アウトカム	指標	初期値/初期状態	目標値／目標状態	目標達成時期
罪を犯した依存症者が、自身の依存症を自覚し、意欲を持って回復への道を歩み、再犯しない状態が維持されている	①支援につながり続けている人の割合 ②支援につながり続けている人の再犯率（再犯＝事件化されたもの） ③支援につながり続けている人の心理変化 ④①のうち、回復支援計画に沿って回復の道を歩んでいる人の事例	①0人 ②該当なし（支援事例がなかったため）※参考）覚醒剤取締法違反により検挙された成人の同一罪名再犯者率は66.9%（令和元年） ③該当なし（支援事例がなかったため） ④事例なし	①50% ②15% ③支援につながり続けている人の半数以上の人が、支援前と比べて、孤独感が軽減したり、自己肯定感や幸福感が増すなど、肯定的な心理変化が見られている ④支援により、依存症であるという病識を持って支援計画に沿って意欲を持って回復への道を歩んでいる（事例）	2022年12月
依存症家族が、依存症の家族会や地域の支援につながった状態になる。	①支援を受けて、家族会や地域の支援につながっている家族の割合	①0人（0%）	①80%	2022年12月
警察関係者や司法関係者等地域の関係団体が、罪を犯した依存症者への支援の必要性を理解し、依存症支援機関につなげる状態になる。	①警察関係者や司法関係者等地域の関係団体からの具体的な紹介者数が増加する。	0人	①年間20名	2022年12月

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

エールの支援についてのアンケート

2022年　　月　　日

エールやマックにつながった方へ、アンケートのご協力をお願いしています。
どうぞよろしくお願いいたします。

Q1.あなたは、どこからの支援を受けていますか？ 当てはまるものに○をつけてください。

1）エール　　2）マック　　3）エールとマック両方

Q2.エールやマックに**つながる前の**、あなたの気持ちの状態について、おたずねします。
下の1～22の各項目について、エールやマックに**つながる前の**あなたの気持ちをあらわすのに、
一番あてはまると思うものを選んで○をつけてください。

	質問	まったくなかった	少しあった	まあまああった	かなりあった	非常に多くあった
1	不安	1	2	3	4	5
2	気分が沈んでゆううつ	1	2	3	4	5
3	自分で立てた目標を実践している	1	2	3	4	5
4	規則正しい生活を送っている	1	2	3	4	5
5	あれこれ心配だ	1	2	3	4	5
6	自分は孤独だと思う	1	2	3	4	5
7	すぐにかっとなる	1	2	3	4	5
8	アディクションの欲求	1	2	3	4	5
9	生き生きする	1	2	3	4	5
10	疲れた	1	2	3	4	5
11	自分には仲間がいると思う	1	2	3	4	5
12	考えがまとまらない	1	2	3	4	5
13	緊張する	1	2	3	4	5
14	自分の居場所がないと感じる	1	2	3	4	5
15	いらいらする	1	2	3	4	5
16	積極的な気分だ	1	2	3	4	5
17	ぐったりする	1	2	3	4	5
18	希望がある	1	2	3	4	5
19	物事がてきぱきできる気がする	1	2	3	4	5
20	自分は依存症だと思う	1	2	3	4	5
21	依存行動をやめたいと思う	1	2	3	4	5
22	依存行動をやめる自信がある	1	2	3	4	5

Q3.**現在の**、あなたの気持ちの状態についておたずねします。
下の1～22の各項目について、**現在の**あなたの気持ちをあらわすのに、一番あてはまると思うものを選んで、
○をつけて下さい。

	質問	まったくない	少しある	まあまあある	かなりある	非常に多くある
1	不安	1	2	3	4	5
2	気分が沈んでゆううつ	1	2	3	4	5
3	自分で立てた目標を実践している	1	2	3	4	5
4	規則正しい生活を送っている	1	2	3	4	5
5	あれこれ心配だ	1	2	3	4	5
6	自分は孤独だと思う	1	2	3	4	5
7	すぐにかっとなる	1	2	3	4	5
8	アディクションの欲求	1	2	3	4	5
9	生き生きする	1	2	3	4	5
10	疲れた	1	2	3	4	5
11	自分には仲間がいると思う	1	2	3	4	5
12	考えがまとまらない	1	2	3	4	5
13	緊張する	1	2	3	4	5
14	自分の居場所がないと感じる	1	2	3	4	5
15	いらいらする	1	2	3	4	5
16	積極的な気分だ	1	2	3	4	5
17	ぐったりする	1	2	3	4	5
18	希望がある	1	2	3	4	5
19	物事がてきぱきできる気がする	1	2	3	4	5
20	自分は依存症だと思う	1	2	3	4	5
21	依存行動をやめたいと思う	1	2	3	4	5
22	依存行動をやめる自信がある	1	2	3	4	5

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

Q4. エールやマックにつながって、自分の変化を感じたり、気づいたりしたことはありますか？
自由に書いてください。

Q5. Q4で回答した、ご自分の「変化」、「気づき」は、何の影響が大きいと思いますか？あてはまるものに○をつけてください。
あてはまるものが、複数ある方は、複数に○をつけてください。**複数に○をつけた方は、「一番影響が大きい」と思うものに、◎をつけてください。**

( )1. プログラムを受けたこと　( )2. 支援者(エール、マックの)の存在　( )3. 支援者(エール、マック以外)の存在
( )4. 回復者の存在　( )5. 友人(エール、マックの仲間)の存在　( ) 6. 友人(エール、マック以外)の存在
( )7. 知識が得られたこと　( )8. 親、家族の存在　( )9. 配偶者(交際相手)の存在
( )10. 仕事によるもの　( )11. 趣味によるもの　( )12. 刑事処分を受けたこと
( )13. 生活環境が変わったこと
14. その他(　　)

Q6. エールやマックの、どのようなところが回復に役立ちそうですか？ 自由に書いてください。

Q7. エールやマックの支援へのあなたの満足度は、以下のどれにあてはまりますか？
あてはまるものに○をつけてください。

( )1. かなり満足　( )2. まあまあ満足　( )3. 普通　( )4. 少し不満　( )5. かなり不満

よろしければ、その理由も教えてください。下の枠に自由に書いてください。

Q8. エールやマックに対して、「こういう支援をしてほしい」といった、ご希望・ご要望はありますか？
自由に書いてください。

Q9. 最後に、あなた自身のことについて、おたずねします。

質問1. 年齢は、おいくつですか？あてはまるものに○をつけて下さい。
1）10代　2）20代　3）30代　4）40代　5）50代　6）60代
7）70代　8）80歳以上

質問2. 性別は、以下のどれに当てはまりますか？
1)男性　2)女性　3)その他

質問3. エール、マックにつながって、どのくらいの期間になりますか？
1)～1カ月未満　2)1カ月～3か月　3)3か月～6か月
4)6か月～1年　5)1年～2年未満　6)2年以上

質問4. どなたの紹介で、エールやマックにつながりましたか？
当てはまるものに、○をつけてください。
1）医療機関(病院など)　2）弁護士　3）警察　4）検察官　5）刑務所
6）保護観察所　7）家族　8）知人
9）その他(　　)

質問5. あなたがエールやマックで受けている支援は、以下のどれですか？(複数ある方は、複数に○をつけて下さい)
1)エールでの面談、電話でのやりとり、手紙のやりとり　2)エールでのプログラムの参加
3)マックへの入所・通所　4)やどりぎでのカウンセリング

質問6. あなたのアディクションの対象は、以下のどれにあてはまりますか？(複数ある方は、複数に○をつけて下さい)
1)アルコール　2)薬物　3)ギャンブル　4)インターネット　5)ゲーム
6)買い物　7)性嗜好障害(性依存)
8)その他(　　)

質問7. アディクションの問題が始まったのは、何歳頃ですか？
(　　)

質問8. アディクションが止まっている期間は、どのくらいですか？
(　　)

質問9. 現在、お仕事はしていますか？
1）仕事をしている　2)仕事をしていない

質問10. 現在、どこにお住まいですか？
1)グループホーム　2)自宅(家族と一緒)　3)自宅(一人暮らし)
4)その他(　　)

ご協力ありがとうございました。

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

休眠預金活用事業
「犯罪を犯した依存症者の支援拠点づくり」

- アンケート結果 -

ジャパンマック福岡

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

アンケート調査の実施概要

1．調査の目的

本事業が対象者の役に立っているのか（有効といえるか）を明らかにすること。

2．調査内容

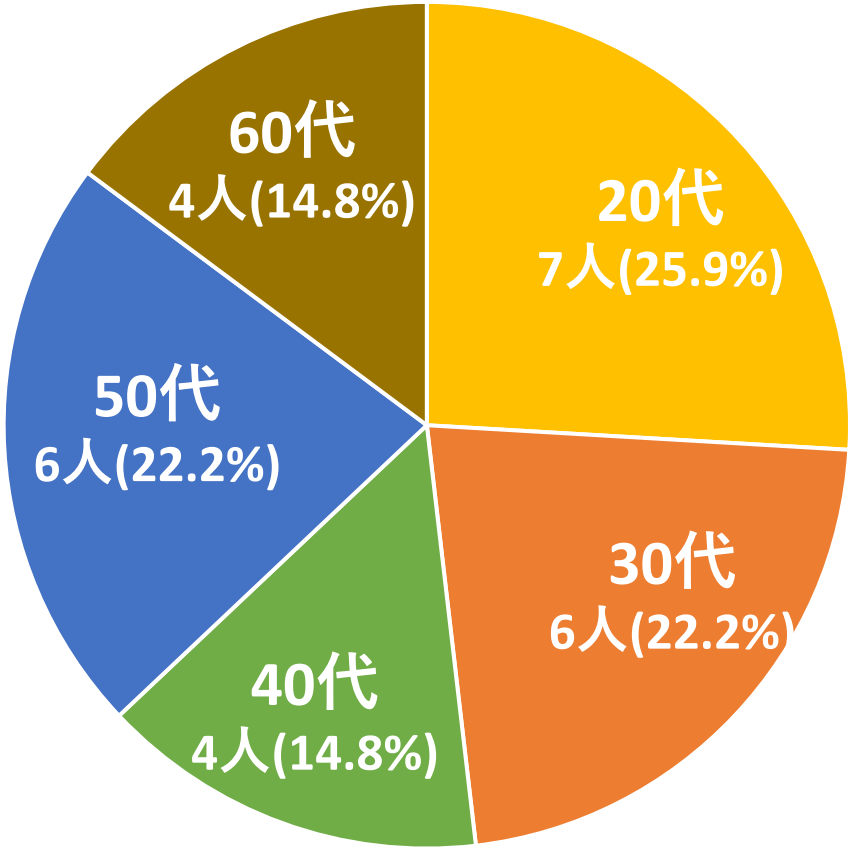
（1）調査方法	自記式のアンケート調査（手伝いが必要な方は一部補助）
（2）調査対象	事業の対象となった被支援者のうち、矯正施設に入所中の方を除いて地域で生活している方に限定してアンケートの回答が可能そうな方27名を選定し、実施した。回収者数27人（回収率100%）であった。
（3）調査実施期間	令和4年10月1日～令和4年10月31日
（4）質問項目	別紙調査票をご確認ください。

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

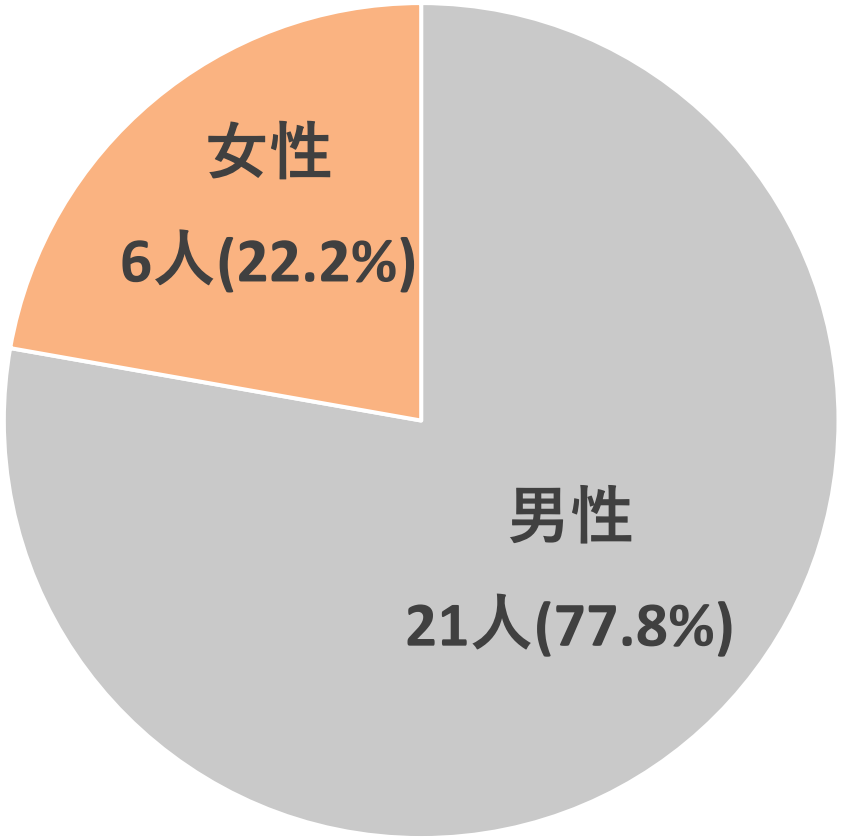
第１部：回答者の基本情報

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

【回答者の年齢】



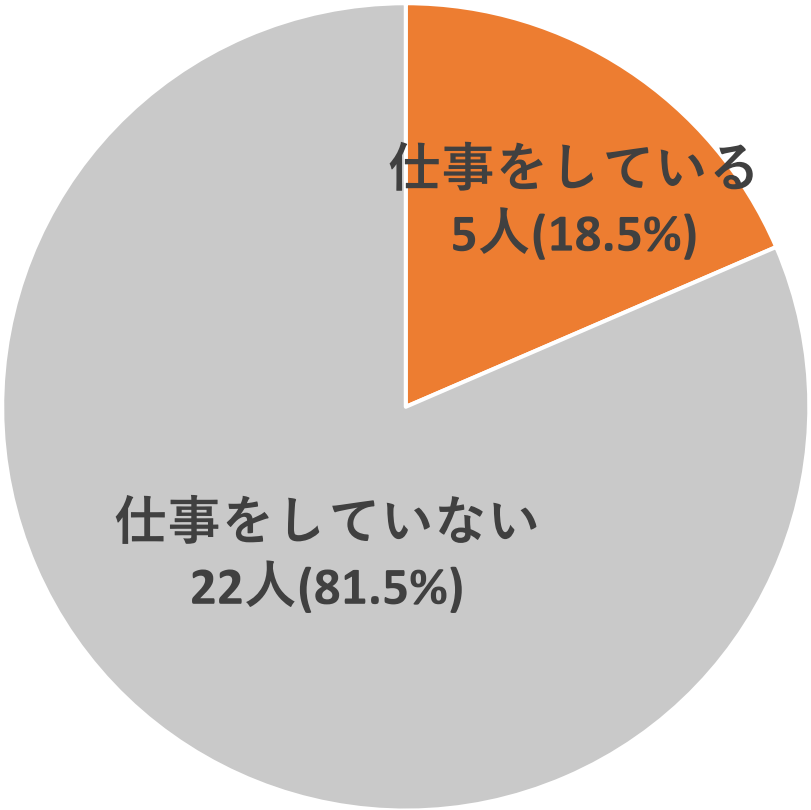
【性別】



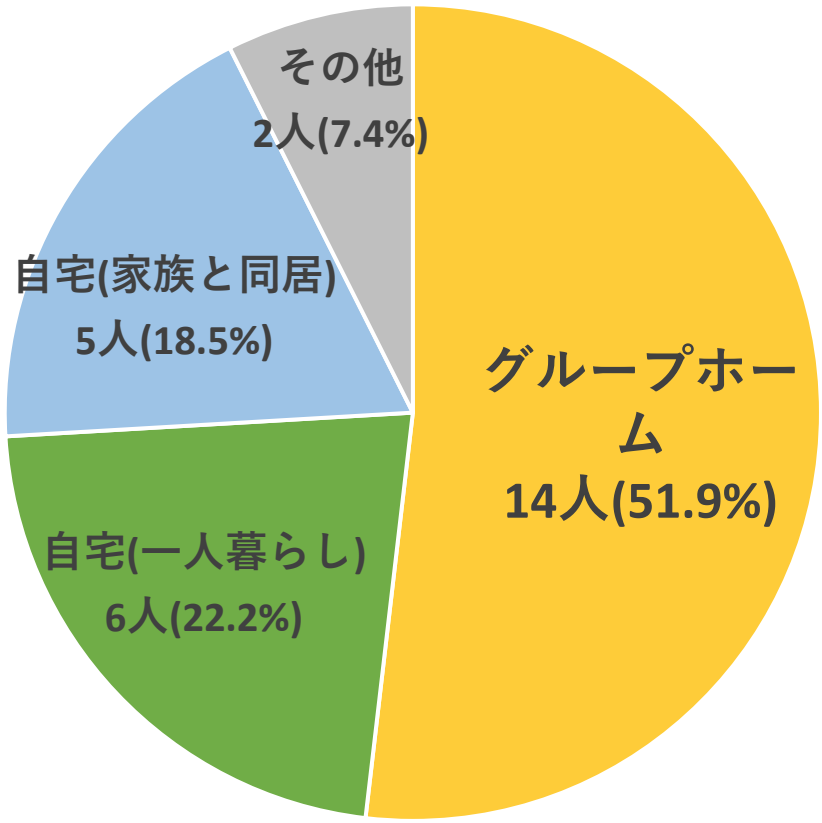
20～30代の若年層が48%と半数近い。性別は男性が8割弱。

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

【仕事の有無】



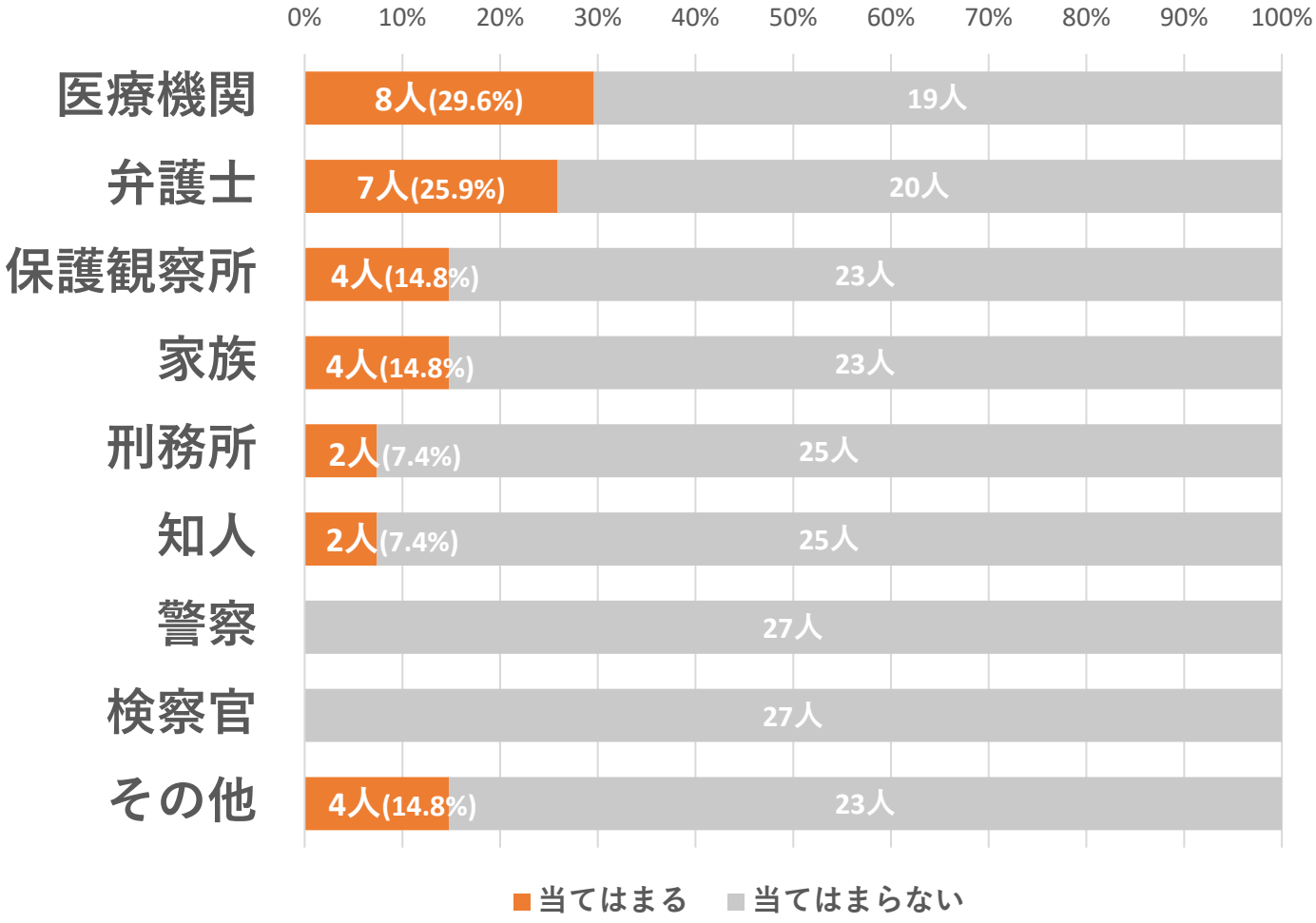
【住まい】



仕事をしていない人が約８割。住まいはグループホームが約半数。

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

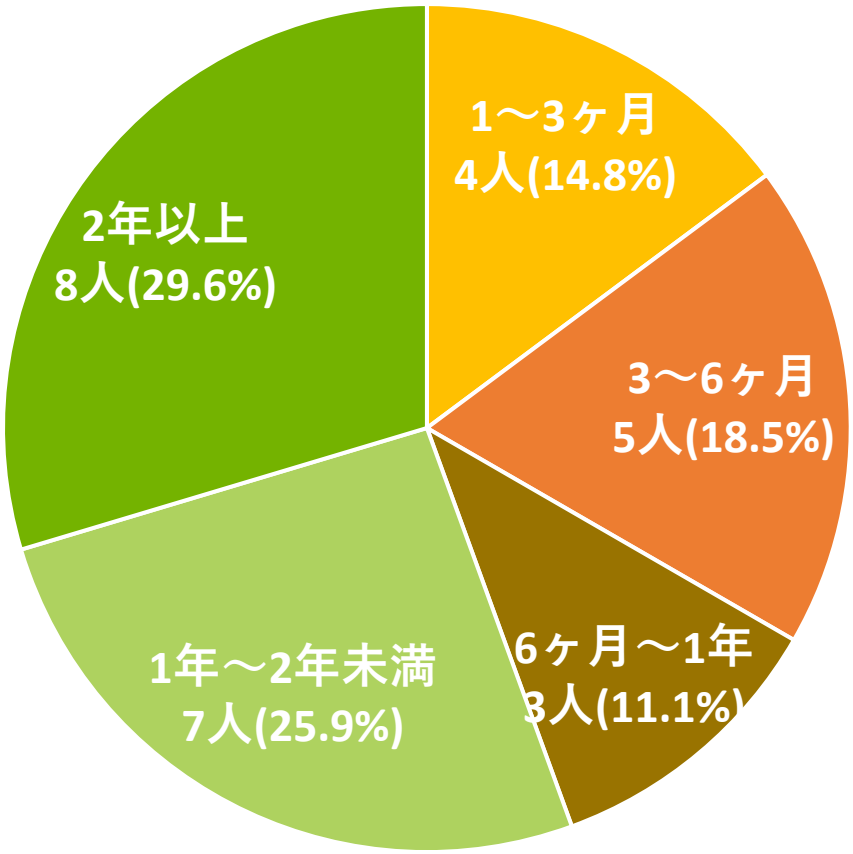
【どこからの紹介でつながったか】



何かが断トツで多いというものはなく、医療機関、弁護士からの紹介がやや多い。

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

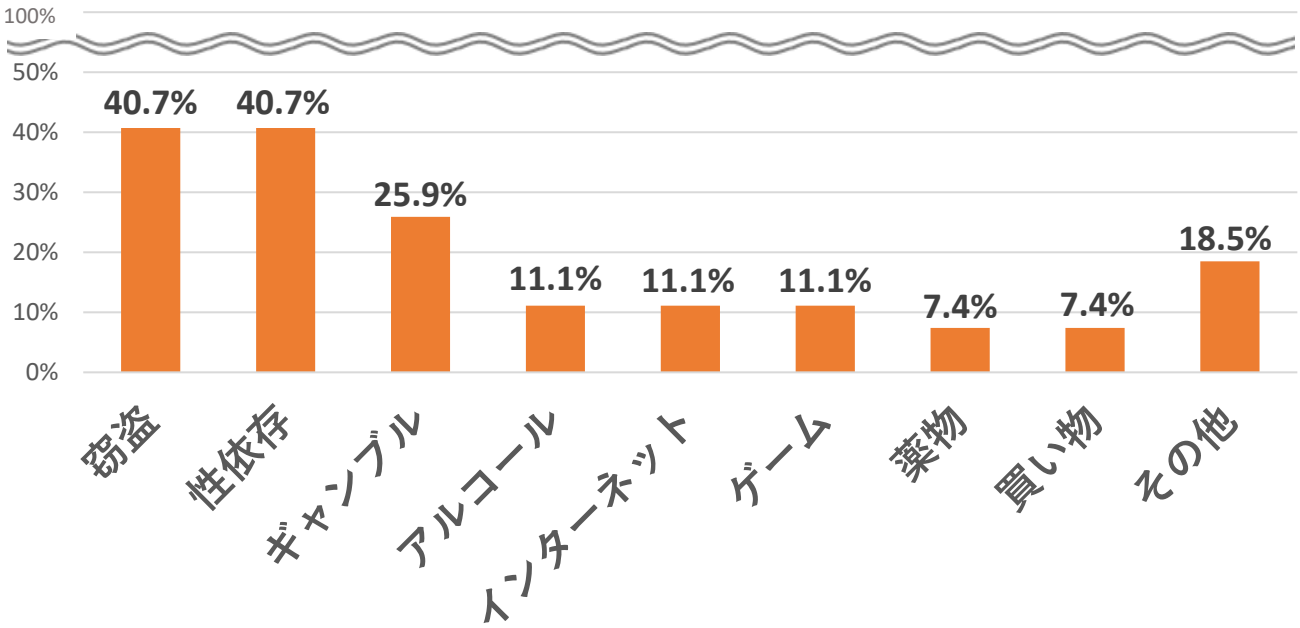
【支援につながってからの期間】



1年～2年未満が25.9%、2年以上が29.6%と年月が経過しても減っておらず、
支援に継続的につながっている人が多い。

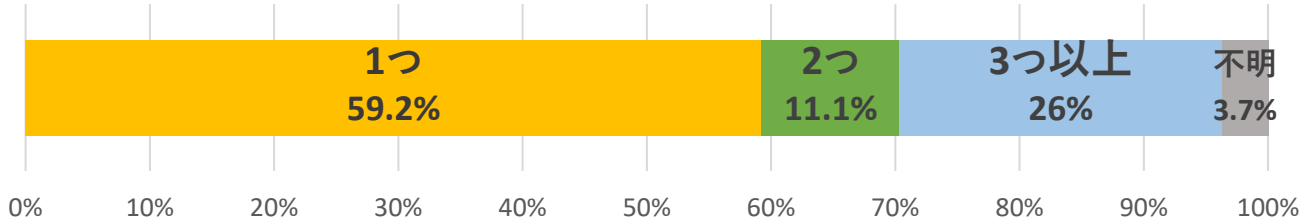
Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

【アディクションの対象】



（その他 内訳）
・共依存…1人(3.7%)
・溜め込み依存…1人(3.7%)
・処方箋…1人(3.7%)
・摂食障害…1人(3.7%)
・強迫的行為…1人(3.7%)

【アディクションの対象数】



アディクションの対象は「窃盗」「性依存」が並んで4割と多い。アディクションの対象が複数ある人は37%いる。

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

ここまでのまとめ

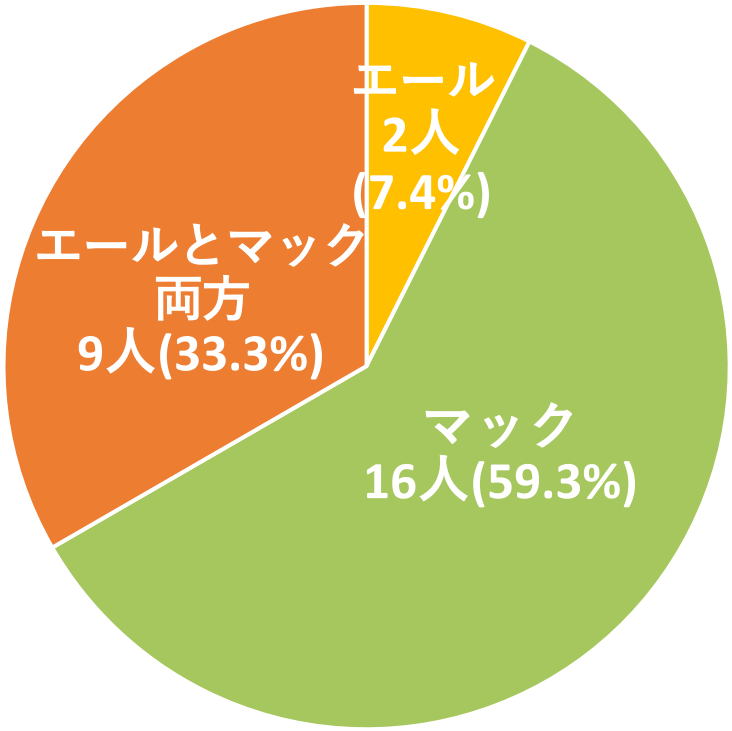
・20～30代の若年層、男性が多い
・住まいはグループホームの人が多い
・紹介元は医療機関、弁護士からがやや多い
・アディクションの対象は「窃盗」「性依存」が並んで4割と多い。
　アディクションの対象が複数ある人は37%いる。

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

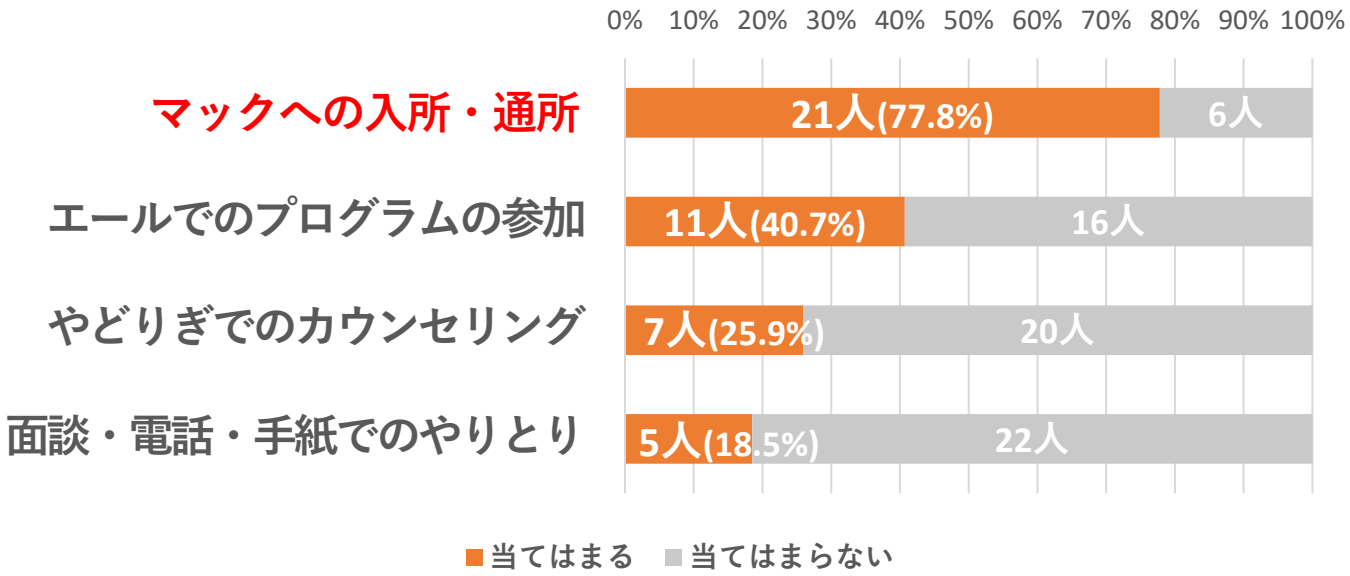
第２部：本事業について

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

【どこから支援を受けているか】



【エールやマックで受けている支援】



支援を受けているところでは「マック」が約６割、「エールとマック両方」が３割強、「エール」が１割以下。
支援の内容では「マックへの入所・通所」が77.8%と多数、次に「エールでのプログラム参加」が40.7%。

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

【エールやマックのどんなところが回復に役立ちそうか】※自由記述

1	自分以外の回復者または仲間がいること
2	ありのままの自分でいいのだとわかること。嘘をつかなくても受け入れてもらえるのだとわかること。ちょっと待てよと一呼吸おける存在がいてくれること。
3	依存症とはどういうものかプログラムを通して学ぶだけではなく仲間との関わり合い、自助グループへの繋がりなども通して実際に回復するためにどうすれば良いのか実践を通じて考え、行動させてくれるところ。
4	ミーティング、カウンセリング、行事、スポンサー、プログラム、共存・互助の精神、瞑想、認知行動療法的
5	かなり役立つと思う。自分一人ではできないと思われる。
6	自助グループで話せないことを話せること。自分で気づけないところを気づいてもらえること。金銭管理（いずれは自分でできるようにしていく）
7	心強くいられる、自分を見直される。
8	悪事をはたらいても、責めないところ
9	色々と学ぶところが沢山ある
10	マックはいろんな仲間がいること、エールは回復につなげてくれる優しい人たちがいること
11	知識が全くなかった。つながることによって対処法が少しずつ増えてきた。
12	12ステップで考え方をあらためるところ
13	12ステップをわかりやすく実践していける環境、ミーティングで仲間と話、体験してきたことを聞き、自分もその中で話せる環境がある事。相談できる環境がある事。
14	自分の意見とかをはっきりと言うようになった事。仲間の人も自分と同じような事をしていて話ができる様になった事。
15	規則正しい生活を送ること。金銭感覚が良くなること。いつでも相談できる環境。スタッフの方々が依存症当事者の方が多いから、理解してくれる。
16	※無記入
17	自分の性格
18	見直し
19	自分もこれからつながる人を救っていきたいと思っている。
20	自助グループに行けてる所が、一番役立てます。
21	回復を目指している人が多い。
22	仲間の存在、自分は1人ではないという思い。
23	自助、マックのミーティング
24	12ステップ、共同体
25	知識が得られたこと
26	自助グループ含め、ミーティングでの体験談や、日常の生活訓練
27	話を聞いてくださるところです。

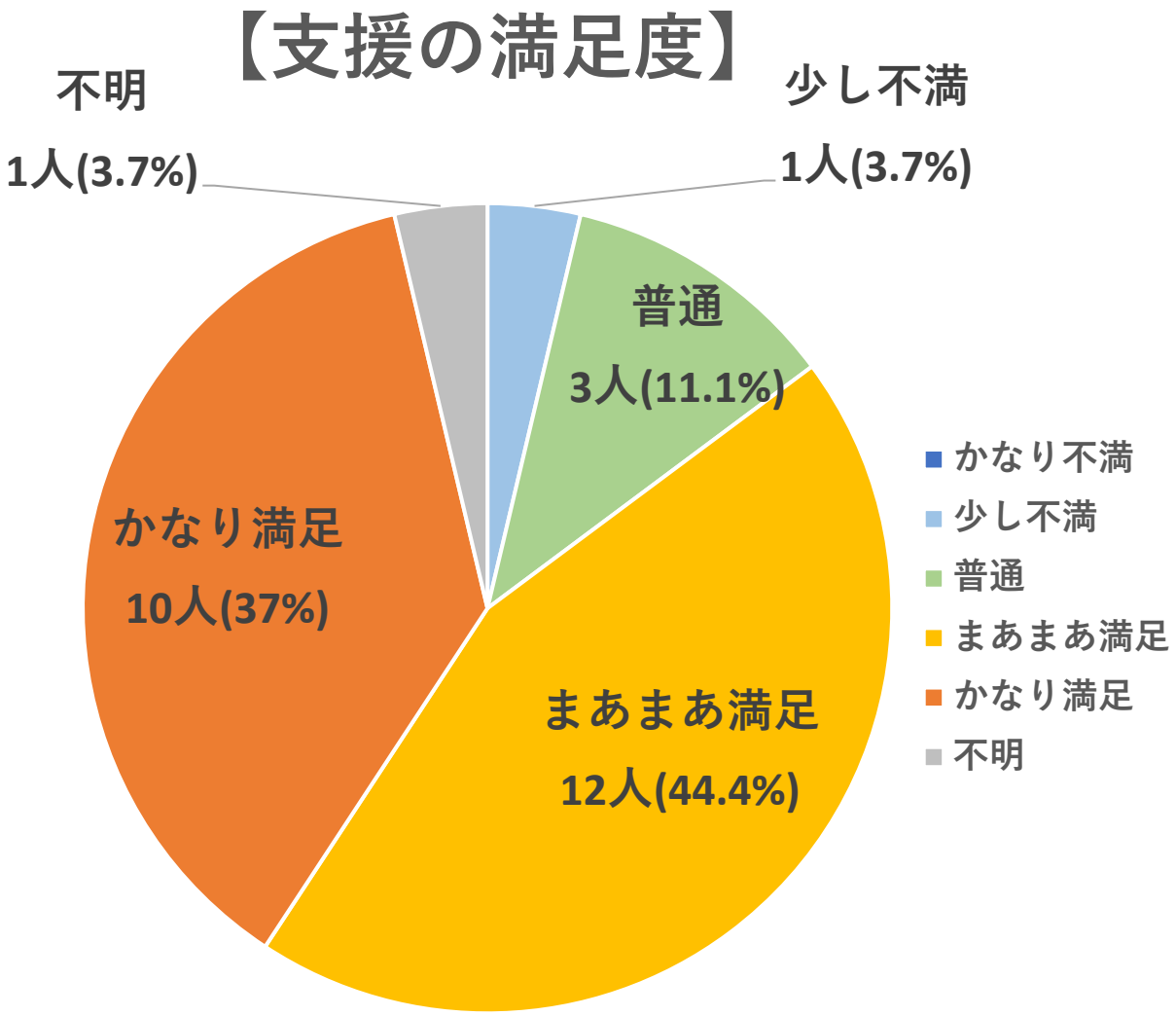
仲間の存在や、自分が受け入れられている感覚、話や相談ができること が多く上がっている。

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

前述のアンケート
「エールやマックのどんなところが回復に役立ちそうか（自由記述）」の内容分析

カテゴリ	サブカテゴリ	コード	自由記述の回答例（一部抜粋）
人とのかかわりに関すること（人との出会いを支援してもらえること）（2）	同じ課題を抱えた仲間と出会い、受け入れられること（3）	仲間との出会い、仲間の存在が得られること（5）	自分以外の回復者または仲間がいること/ マックはいろんな仲間がいること、など（5件）
		自助グループへのつながり、自助グループの存在が得られること（5）	自助グループで話せないことを話せること/ ジョジョグループに行けてるところ、など（5件）
		責められず、受け入れてもらえること（9）	ありのままの自分でいいのだとわかること/ 悪事をはたらいても責めないこと、など（9件）
	話し、相談する機会を得られること（2）	話す、相談すること（5）	話を聞いてくださるところ/ 自分の意見とかをはっきり言うようになったこと、など（5件）
		ミーティングに参加すること（4）	マックのミーティング/ ミーティングでの体験談/ミーティングで仲間と話す、など（4件）
具体的な支援に関すること（回復やより良い生活に向けた支援を得られること）（2）	専門的な内容を含む、具体的な支援が得られること（2）	カウンセリングや認知行動療法など、専門的な支援を受けられること（8）	ミーティング、カウンセリング、行事、スポンサー、プログラム、瞑想、認知行動療法的、など（8件）
		生活訓練や行事参加等の機会が得られること（2）	日常の生活訓練、行事
	回復やより良い生活に向けて必要なものを学べること（2）	考える機会、自分を見直す機会が得られること（8）	心強くいられる、自分を見直される/ 自分で気づけないところを気づいてもらえること、など（8件）
		問題への対処法やより良い生活の仕方を学べること（6）	つながることによって対処法が少しずつ増えてきた/ 規則正しい生活を送ること/金銭管理、など（6件）

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。



「まあまあ満足」「かなり満足」を合わせると22人（81.4%）が満足と答えている。

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

【支援の満足度とその理由】※満足度は選択式、理由は自由記述

1	まあまあ満足	面談等も定期的に行われるので安心することができる。相談もしやすい。
2	まあまあ満足	どんな自分でも良いと受け入れてくれるスタッフ仲間がいることは依存への強い欲求をセーブしてくれるし、不安の代わりに安定とは何かを教えてくれる。
3	まあまあ満足	東京にいながら福岡のマックのプログラムにオンラインで参加させていただいてとても勉強になりました。同じ依存症のプログラムに参加できる機会がなかなかないため、柔軟に対応していただけたことがありがたく感じました。
4	少し不満	ひきこもりになるので、スマホ等での会話してほしいのだが。マックへの通所が基本なのは分かっているがこもる。
5	かなり満足	とても知識が得られた。今後の対応を考えることができるようになった。
6	まあまあ満足	数多く相談にのってもらえていること。お金を残すことができていること。趣味（メダカ飼育）がもてるようになったこと。知識（スキル）を身につけられるようになったこと。
7	かなり満足	温かく支えられている、励ましてもらえる言葉をかけてもらえること。
8	まあまあ満足	このような場所は他にない。
9	かなり満足	手助けしてくれる
10	かなり満足	今が過去より楽しく生きているから
11	かなり満足	仲間ができた。少しずつ規則正しく生活できるようになった。貯金もできた。
12	普通	回復には時間がかかるのは理解しているがもっとスピード感あっても良いと思う。
13	まあまあ満足	生活の面では、回復するプログラムは充実していると思うが、就労支援という面では、不十分なところもあるのではと思う。
14	まあまあ満足	生活面でも不安なく生活できている事。今は、土台作りと思っているので、しっかりやれている事。

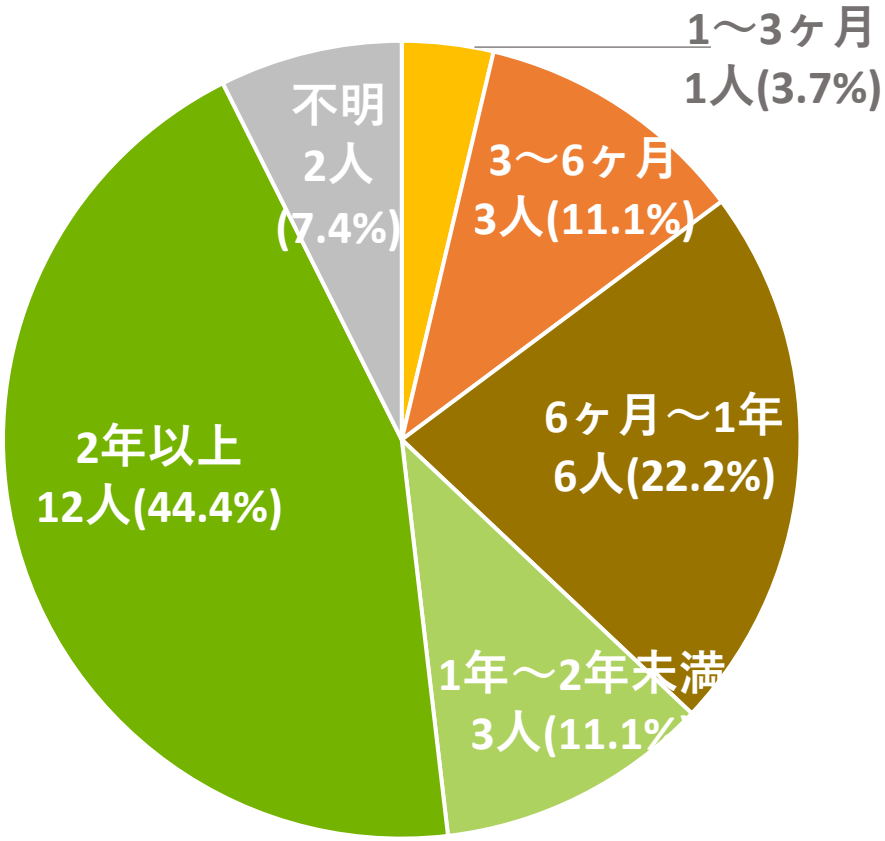
15	かなり満足	なんでも相談できる環境があり、その場その場での利用者への対応が良いと思う。
16	※無記入	※無記入
17	普通	※無記入
18	まあまあ満足	なし
19	かなり満足	理解者や理解しようとしてくださる方が沢山いるから。
20	かなり満足	スタッフとか、仲間とかにめぐまれてて、本当にかんしゃしています。
21	かなり満足	関わってもらっていることによって、物事の捉え方が変化している。
22	まあまあ満足	自分にあったプログラムの支援がある。
23	まあまあ満足	アディクションを抑えられている
24	まあまあ満足	自分と向き合えるきっかけとなった事
25	まあまあ満足	特になし
26	普通	合理的配慮頂いています。
27	かなり満足	やはりQ6と同じです（話を聞いてくださるところです）

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

【支援期間とアディクションが止まっている期間の相関表】

Q9_3_支援につながってからの期間	Q9_8_アディクションが止まっている期間
SA	FA
1～3ヶ月	3か月
1～3ヶ月	6か月
1～3ヶ月	4年
1～3ヶ月	クレプトマニアに関しては6年以上
3～6ヶ月	※無記載
3～6ヶ月	4か月
3～6ヶ月	6か月
3～6ヶ月	2年半
3～6ヶ月	5年
6ヶ月～1年	刑事施設に収容されている期間を除いて、7カ月
6ヶ月～1年	10か月ほど
6ヶ月～1年	1年
1～2年未満	※無記載
1～2年未満	1年
1～2年未満	1年くらい
1～2年未満	1年3か月くらいです。
1～2年未満	1年6か月
1～2年未満	2年
1～2年未満	3年
2年以上	約1年（何度目かの）
2年以上	1年4か月です。
2年以上	2年
2年以上	2年
2年以上	2年以上
2年以上	2年半
2年以上	ギャンブル：2年8カ月,性依存：1年
2年以上	薬物は4年

【アディクションが止まっている期間】



支援につながっている期間とアディクションが止まっている期間が相似している人が多数いる。また、支援につながる前から比較的長期間アディクションが止まっている人も一定数おり、総じて2年以上の人が一番多い。

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

ここまでのまとめ

・支援を受けているところ「マック」が約６割、「エールとマック両方」&「エール」が約４割
・受けている支援は「マックへの入所・通所」が77.8%、「エールでのプログラム参加」が40.7%、「やどりぎでのカウンセリング」が25.9%
・回復に役立ちそうなこととして、仲間の存在や、自分が受け入れられている感覚、話や相談ができることが多く上がっている。
・支援につながっている期間とアディクションが止まっている期間が相似している人が多数いる。

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

第３部：アウトカムの成果について

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

ロジックモデル【犯罪を犯した依存症者の支援拠点づくり】

【短期アウトカム】
この部分の達成度合いについて

事業実施地域において、罪を犯した依存症者が地域社会で依存症から回復し、再び犯罪に至らないような生活をする。安全安心の地域社会になる。

短期アウトカム

01
罪を犯した依存症者が、自身の依存症を自覚し、意欲を持って回復への道を歩み、再犯しない状態が維持されている。

02
依存症家族が、依存症の家族会や地域の支援につながった状態になる。

03
警察関係者や司法関係者等地域の関係団体が、罪を犯した依存症者への支援の必要性を理解し、依存症支援機関につなげる状態になる。

アウト

【指標】
①支援につながり続けている人の割合
②支援につながり続けているひとの再犯率（再犯＝事件化されたもの）
③支援につながり続けている人の心理変化 ←この指標に関して
④①のうち、回復支援計画に沿って回復の道を歩んでいる人の事例

警察関係者や司法関係者等を含む、関係機関職員向けのセミナーを開催する。また、セミナー参加者らが依存症回復支援を行っている団体のネットワーク（検討委員会）に参画し、罪を犯した依存症者の存在とその問題について知る機会ができる。

活動

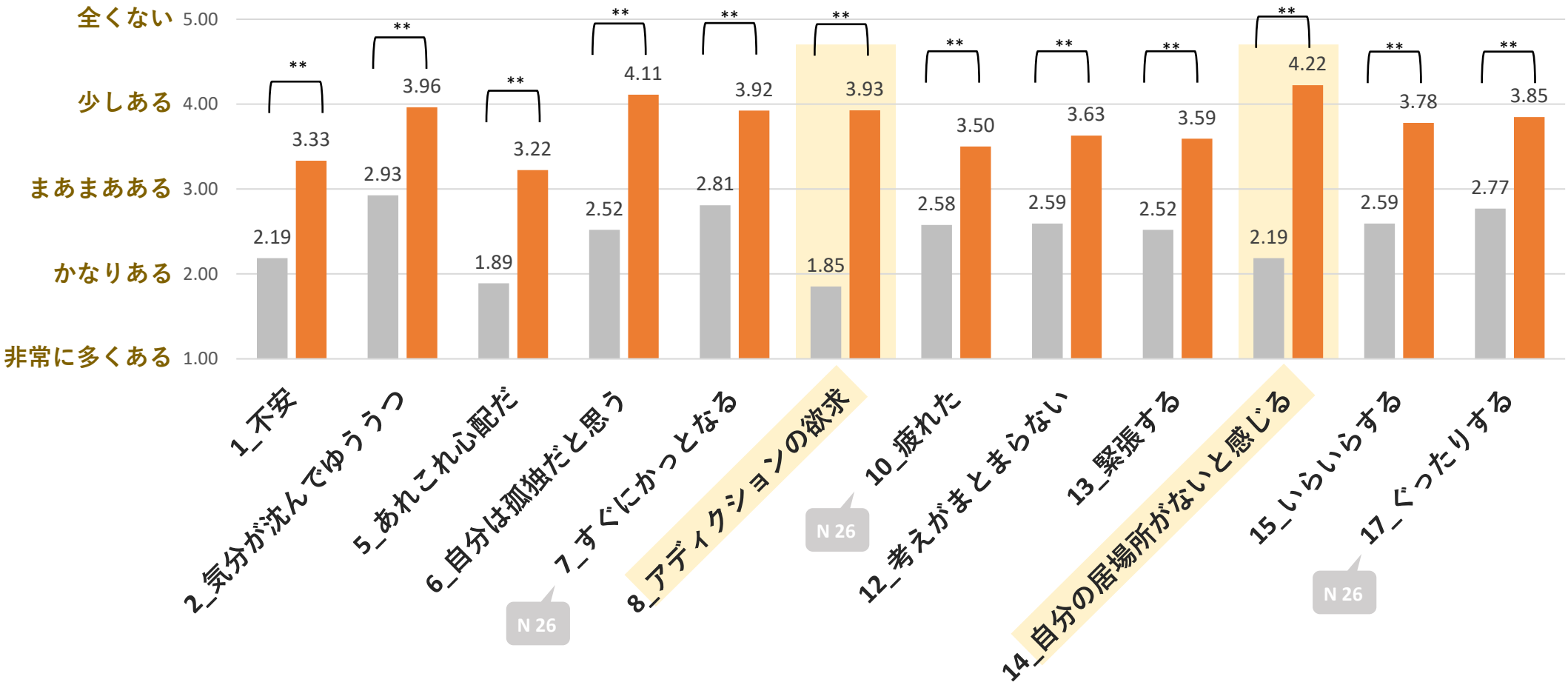
相談センターを開設し、依存症者への面接を行う。顕在化用漫画冊子を作成し、関係先に配布。回復支援計画を作成し、計画にそった支援を行う。

相談センターを開設し、周知用パンフを作成し関係機関に配布。依存症者家族の疲弊や不安の緩和の為、定期的な心理面接を行う。

警察、検察、司法関係者、医療関係者、福祉関係者で構成した検討委員会を年2回実施。関係機関職員向けのセミナーを行い、触法依存症者の支援に対する知識を持った支援者を増やす。

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

【支援につながる前と現在の心理変化① マイナス感情】（対応のあるt検定）



■支援前（N 27）　■現在（N 27）

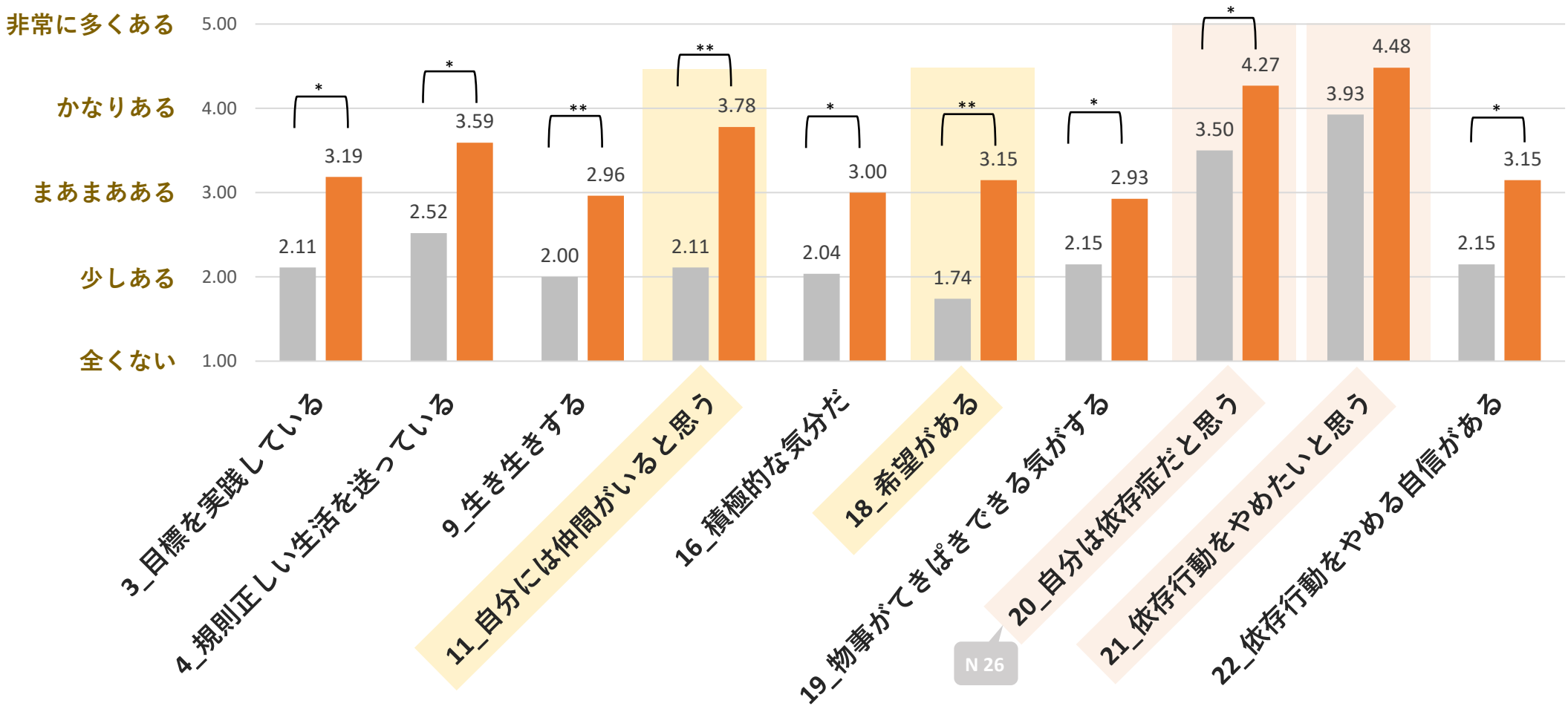
**P<0.01

※一部回答が未記入であったため(N 26)となっている項目があります

すべての項目において改善しており、心理的に落ち着いてきている様子がうかがえる。
特に**「アディクションの欲求」「自分の居場所がないと感じる」が大幅に減少している。**

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

【支援につながる前と現在の心理変化② プラス感情 】（対応のあるt検定）



■支援前（N 27）　■現在（N 27）

※一部回答が未記入であったため(N 26)となっている項目があります

**P<0.01	*P<0.05

全体的に改善傾向にあり、「自分には仲間がいると思う」「希望がある」は特に上昇している。
「自分は依存症だと思う」「依存行動をやめたいと思う」は他の項目以上に強く思っている様子がうかがえる。

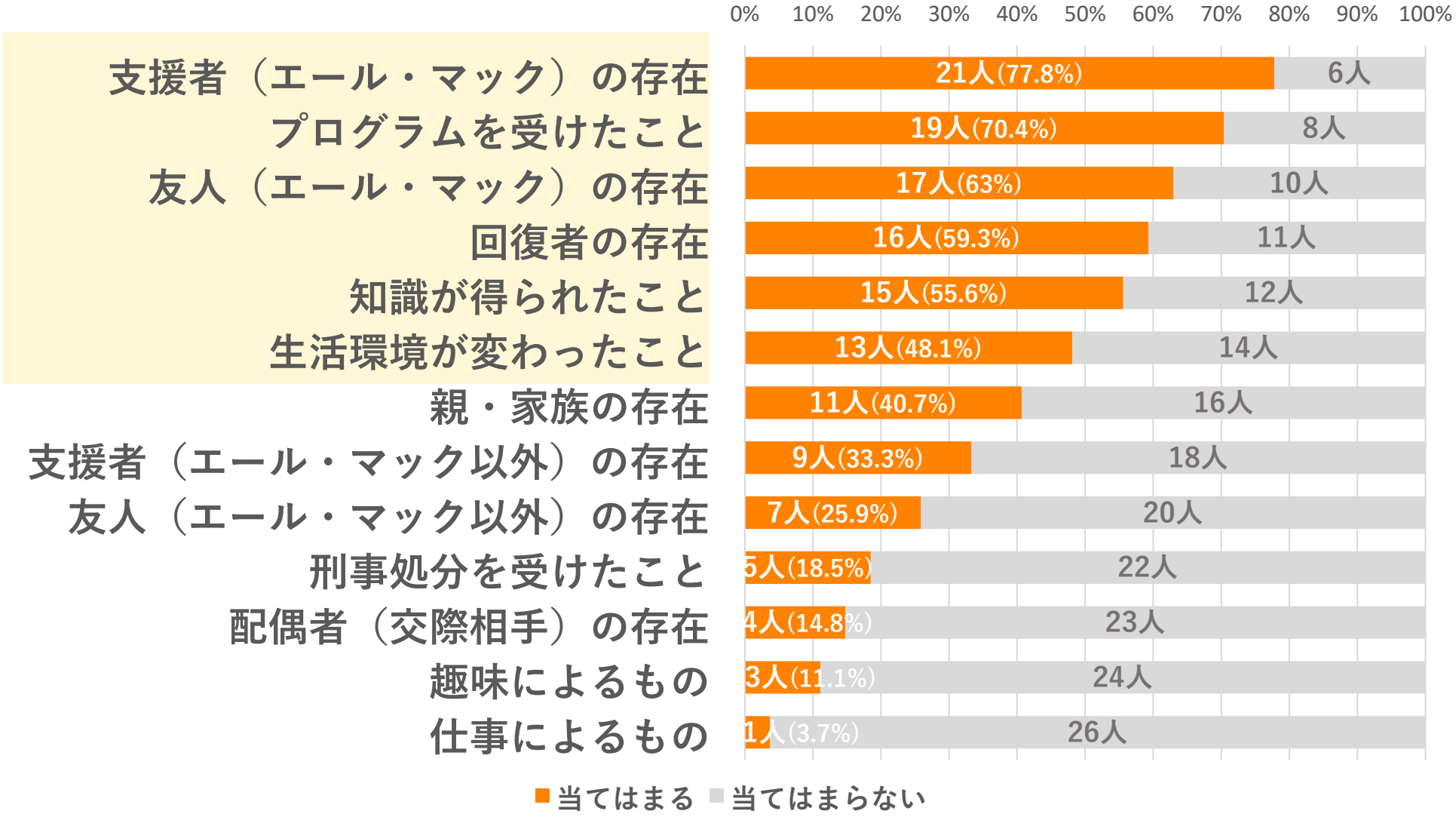
Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

【エールやマックにつながってからの自身の変化や気付き】※自由記述

1	自分を客観的に見ることができる。前より生活を楽しむことができている。
2	自分の行動を思い振り返れる今がある。嘘をつくことが少なくなった。本来の自分で良いのだと思えるようになった。
3	以前は自分の依存症への欲求、衝動が起こった時はどうすればよいかわからず持て余したりしていたが、今はそのようなときどうすれば良いか現実的な対応が取れるようになってきた。あと、自分が一人ではなく仲間がいるという感覚も持てるようになってきた。
4	KA、自助グループでのミーティング、言いっぱなし、聞きっぱなし→正直になれる仲間がいる、「アディクションは脳の病気である」と確認できたこと。
5	回復者の存在とその人たちと話ができること、参考になるし、KAでも同じように参考になる、一人ではないと感じることができた。
6	食の好みが変わった。メダカなど生き物に対して愛情を持てるようになった。イライラが少なくなった。アディクションの欲求が減った。人と少し話せるようになった。自分に少し自信を持てるようになった。
7	アディクションを使おうと思うことがなくなった。心が落ち着いて、自分を客観視できるようになった。
8	早く出会いたかった。
9	人を信じられるようになった。
10	自分もまだまだ捨てたもんじゃないなと思いました。生きる力を見つけました。
11	自分の考え方次第では生きていけなかった。仲間がいたからここまでやれてきたと思う。今となってはつながってよかったと思う。
12	以前より地に足をつけることができ、自信が少し持てた気がする。考え方が楽になった。
13	つながる前は、自分の身体や精神に問題がある事にまったく気づいていなかった。つながってなかったとしたら、死ぬまでわからなかったと思う。命を救ってくれた。すべての周りの人への感謝を忘れなければ、良い人生が送れると思う。
14	今は、日常生活もできているので、気分的に安定していると思うし、マックに来て良くなったと思う。
15	普通の生活が出来ることへの感謝。両親、仲間、スタッフなどの頼れる人がいる心強さを感じてる。金銭感覚が少しずつ良くなってきている。
16	※無記入
17	なし
18	仲間ができたこと
19	アディクションをせずに社会の中でも生活できていること自体が変化だと思います。
20	マックにつながり、変化は、仲間が出来たことです、今までは、仲間もいなかったので、今は、すごくかんしゃしています。
21	物事の捉え方が少しずつ変わってきている。
22	見えないものの大切さ、有難さに気付かされた（家族愛、友情、信用など）
23	気分が楽
24	自分の意見が言えるようになりました。
25	自分で依存症だと改めて気が付いた。
26	自分一人だけではなかった。
27	改めて、人付き合いが苦手だなと思いました。しかし卑屈にならないように生活している気がします。バランス感覚や妥協を覚えようと取り組んでいます。

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

【自身の「変化・気付き」は何からの影響が大きいか】



回答の選択肢13項目のうち、エール・マックの影響に該当する６項目全てが上位に集中しており、
自身の変化にエール・マックの影響が大きい様子がうかがえる。

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

まとめ

・心理変化は全体的に改善傾向にある。
特に「アディクションの欲求」「自分の居場所がないと感じる」が大幅に減少、
「自分には仲間がいると思う」「希望がある」は上昇している。
・「自分は依存症だと思う」「依存行動をやめたいと思う」は他の項目以上に強く思っている様子がうかがえる。「依存行動をやめる自信がある」も上昇している。
・変化や気づきはエールやマックからの影響が大きい

Copyright 2023 ジャパンマック福岡　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。